

富山市の遺跡物語

特別展 富山市・岐阜市都市間交流事業
越中と美濃を結ぶ考古展Ⅱ

城と都市

—遺跡から見る戦国と江戸—

2010年
9月11日(土)
10月24日(日)

越中と美濃を結ぶ考古展Ⅱ を開催しました

佐藤記念美術館において平成22年9月11日（土）から10月24日（日）まで富山市・岐阜市都市間交流事業「越中と美濃を結ぶ考古展Ⅱ」を開催しました。

同展は平成21年度から2回シリーズで開催したもので、今年度は「城と都市—遺跡から見る戦国と江戸—」と題し、両市の主要な発掘調査出土品約550点を展示いたしました。

戦国時代～近世という時代を象徴する城郭や城下町関連遺跡の発掘調査の成果から、両市の特色ある歴史を紹介し、両地域の交流の歴史を紹介することにより、現在の町並みにつづく両市の歴史について理解を深めることができました。

城と都市－遺跡から見た戦国と江戸－ 越中と美濃を結ぶ考古展Ⅱ開催

展示

9月11日～10月24日



本展は平成21・22年度の2ヶ年計画で、富山市教育委員会埋蔵文化財センター・岐阜市歴史博物館が事業主体となり開催いたしました。

今回は「城と都市」をテーマとして、越中と美濃の中世から江戸時代までの発掘調査出土品を時代ごとに展示しました。

富山城跡や岐阜城千畳敷遺跡（織田信長公居館跡）など、動乱の時代を象徴する城郭からの出土品から、当時の人々の暮らしを身近に感じられる城下町からの出土品とともに、千歳御殿図屏風・関ヶ原合戦絵巻などの絵画、越中瀬戸焼・瀬戸美濃焼などの工芸品も展示され、訪れた方々を魅了していました。

会期中には記念講演会を1回、展示解説会を3回開催し、県内外の歴史愛好家が多数聴講されました。また、関連企画として「石垣刻印を探そう！探検ツアー」を開催しました。歴史愛好家のほか親子連れも参加し、学芸員の解説を聞きながら石垣の刻印を発見するゲームを楽しみました。

同展は7月16日から8月27日まで岐阜市歴史博物館でも開催されました。

記念講演会

9月11日

高橋方紀氏（岐阜市教育委員会社会教育課副主査）を講師に迎え、「天下布武の城－岐阜城・織田信長公居館跡－」と題して講演いただきました。

高橋氏は自身が担当された岐阜城千畳敷遺跡（織田信長公居館跡）の発掘調査成果を紹介されたあと、金華山頂の城郭や山麓の城下町との関係に触れ、それらを含めた岐阜城の全体像を解明していくことが必要と述べられました。



北代縄文広場この1年—2010年度—

北代縄文広場の管理運営は長岡地区自治振興会に委託しています。平成22年度は、土器づくり体験1万人記念行事など多くの行事を行いました。平成22年4月から平成23年2月末までの来場者は6,725人です。

平成23年1月22日には長岡地区自治振興会の恒例行事「縄文冬まつり」が行われました。三世代にわたる地区住民の交流に活用されました。

復元豊穴住居の修理工事を開始しました！

発掘調査や古建築の研究成果に基づき、広場には縄文時代の豊穴住居が5棟、高床倉庫が1棟、それぞれ実物大で復元されています。オープンから11年が経過して老朽化した豊穴住居の修理工事を、今年度から開始しました。広場の修理事業は数ヶ年継続する予定です。

修理する建物の長寿命化を図るために、建築・木材・土壤・菌等の専門家から指導・助言を得ながら修理事業を進めています。広場の環境でどのように木材が劣化していくのか、長期的な観察実験を開始しました。

木材腐朽の進行を遅らせるには雨水などによる湿気対策が重要です。広場の豊穴住居は土屋根なので、湿気対策効果が高い屋根土は何なのか、検討を始めました。これらの検討作業を基に、今後はより劣化を防ぐ工法で建物を建て直す予定です。

縄文土器づくり体験学習 参加者1万人突破！

9月11日

オープンから11年を経て、広場での体験学習の目玉となる縄文土器づくり体験の参加者が1万人を突破しました。くす玉を割ってお祝いした後、北代縄文広場解説ボランティアの会会長が記念品として縄文土器（複製品）を贈呈しました。

今年度から、体験学習直後の思い出と共にオリジナル作品を持ち帰れる、テラコッタ粘土を用いた縄文グッズづくり体験学習メニュー（製作時間約10分）を新たに追加しました。

「社会に学ぶ 14歳の挑戦」

学校外で就業体験等の活動を行う「社会に学ぶ14歳の挑戦」として、呉羽中学校2年生5名を受け入れました。広場の清掃のほか、縄文土器づくり体験学習の準備（粘土づくり）などの体験を通じて、達成感とご両親への感謝の念を抱いたようです。

7月8日には、埋蔵文化財センターが受け入れた西部中学校2年生4名が、広場で就業体験を行いました。粘土づくりのほか、野焼きスペースの補修などの就業体験を行いました。



屋根土の除去後、劣化状況を確認しながら屋根材や柱などを解体し、埋め戻しました。今年度に加工した屋根材・柱材等を使って、次年度に土屋根を復元する予定です。



縄文グッズの一例（テラコッタ粘土製）



体験学習用の粘土づくり

安田城跡歴史の広場この1年—2010年度—

平成22年4月から平成23年2月末までの来場者は10,240人と、多くの来場者の方々にお越しいただきました。地元（朝日地区）住民による「第18回 安田城月見の宴」が8月28日に催されたほか、朝日公民館主催の「朝日地区地域めぐり」など、43団体3,403人の学習・憩いの場としても活用されました。

春から夏にかけて水堀で色とりどりに咲く睡蓮や飛来する野鳥の撮影スポットとしても利用されています。

安田城跡資料館の常設展示が充実しました！

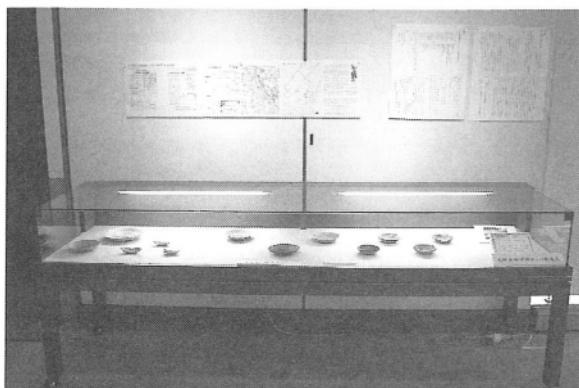
安田城は天正13（1585）年、全国統一をめざす羽柴（豊臣）秀吉が越中の佐々成政を攻めた際、秀吉の本陣となった白鳥城の支城です。この戦いにより越中の戦国時代は終わりました。ホールで放映しているビデオ映像「史跡安田城跡 再発見の旅」でも秀吉の佐々攻めを紹介しています。

試掘調査出土品の9割以上は灯明皿で、軍議など夜遅くまで明かりが灯されていたことが想像されます。展示室のスペースが限られるため、灯明皿の多くはこれまで展示できませんでした。

そこで、ホールの一角を利用して、灯明皿などを追加展示しました。また、白鳥城跡出土品や縮尺1/1,000の模型を新たに展示しました。平城（安田城）と山城（白鳥城）の構造や規模の違いをご覧いただけます。

白鳥城は呉羽丘陵最高峰（標高145m）の城山に築かれ、その跡地は城山公園として整備され、市民の憩いの場となっています。白鳥城跡には郭や土壘、空堀、井戸などが現存し、安田城跡歴史の広場も見渡せます。散策路が整備されており、ハイキングコースとしても最適です。

越中戦国史の舞台を歩く拠点としても、安田城跡歴史の広場を活用してください。



灯明皿などの追加展示



安田城跡模型と白鳥城跡模型・出土品の追加展示

『社会に学ぶ 14歳の挑戦』

7月7日には、埋蔵文化財センターが受け入れた西部中学校2年生4名が、園路など広場内の除草等の就業体験を行いました。

炎天下での作業でしたが、来場者の方々に「ご苦労さま」・「頑張っているね」とねぎらわれて、感謝される喜びを感じ取っていました。

苦しいなかでも我慢強くやり遂げることを通して、達成感を得ただけでなく、一回り成長されたことが感想文からうかがえました。



園路や本丸広場の除草

1. 新たに 6 基の墳墓を確認

今年度調査区（2,160 m²）で、弥生時代後期～古墳時代後期（約2,000～1,400年前）の墳墓が新たに6基見つかりました。

平成17～22年度の調査で見つかった百塚遺跡と百塚住吉遺跡の計30基の古墳群と、これらの南にある八ヶ山の神明社の八ヶ山遺跡内古墳（方墳か）をあわせて「百塚古墳群」と総称することにしました。

これまで、呉羽丘陵中南部やその南の羽根丘陵では、四隅突出型墳丘墓を中心とした山陰との関係が深い有力な集団の存在が知られていました。呉羽丘陵北部においても弥生時代後期から古墳時代にかけて別の有力な集団の存在が浮上してきました。

2. 馬具の「轡」が出土

古墳時代後期（6世紀後半）とみられる円墳（23号墳）の周溝内から埋葬施設が2箇所みつかり、うち1箇所から鋸で膨れたL字形の鉄製品が1点出土しました。これは、馬を制御するために頭部に装着する馬具の「轡」（馬にくわえさせる「衡」の部分）と判明しました。

轡の出土は、県内では高岡市矢田上野古墳（6世紀前半）と高岡市城ヶ平横穴墓群（6世紀末）から1点ずつ出土しており、3例目となります。

出土した轡は装飾などが無く実用的な品とみられ、当地域において早い段階から農耕や騎乗・儀礼などに用いられた馬がいたことが推測されます。馬具のなかでも轡は、馬を制御するという最も重要な機能を持つ装具です。馬は当時、権力の象徴でもあり、それを操ることのできる有力者がいたことを物語っています。

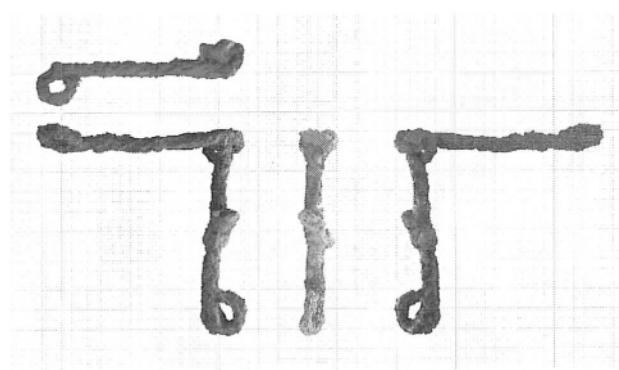
一方、轡が出土した埋葬施設は、円墳の周溝（幅1.4m・深さ0.8m）内に設けられ、長さ2.5m、幅0.7m、深さは0.4mです。この規模から、馬そのものを埋葬したのではなく、古墳本体の被葬者に関係の深い人物を埋葬した際に、轡を副葬したとみられます。

3. 埋葬施設から赤色顔料が出土

弥生時代終末期の方形周溝墓（19号墳・一边19m）に設置された2基の埋葬施設（木棺）の底部から、赤色顔料が見つかりました。蛍光X線分析の結果、水銀朱と判明しました。これを入手し得た有力者がこの地にいたことを物語っています。（鹿島昌也）



23号墳（北から）



馬具「轡」の展開写真

調査概要報告 2 呉羽丘陵北端の古代集落

この遺跡は呉羽丘陵の北端、旧神通川の河岸段丘に位置し、西は射水平野の東端部を望むことができます。調査区は富山市八ヶ山地区と寺島地区の境目に位置します。

基幹農道整備事業に伴い、900 m²の発掘調査を実施しました。奈良時代後期の大溝は、幅約6m、深さ0.9~1.3mで、延長約17m分が見つかりました。北から南に向かって深くなり、現在の水の流れとは逆行していたようです。

大溝の近くでは、同じ方向や軸を少し変えた中小規模の溝が10条以上見つかり、奈良時代後期の須恵器や土師器が出土しました。これらの溝は、集落の西辺部を区画していたと考えられ、その境目が少しづつ移動していましたことを物語っています。

ひゃくづかすみよし 百塚住吉D遺跡



大溝（南から）

調査概要報告 3 戦国時代の国人寺崎氏の平城

がんかいじじょうあと 願海寺城跡

1. 願海寺城跡のあらまし

この遺跡は、富山市願海寺地内に所在し、射水平野を北流する鍛治川（現新堀川）右岸の微高地に立地する戦国時代の平城です。寺崎民部左衛門尉盛永とその子喜六郎が城主として居城したと伝えられています。寺崎氏は、元亀元（1570）年頃まで神保氏の家臣でしたが、のちに上杉氏・織田氏の家臣となります。しかし、天正9（1581）年、佐々成政の越中転封に反抗して上杉方についたため、織田方に攻められ、居城の願海寺城は落城しました。また、築城以前には願海寺が建立されていたと伝えられています。

平成14年度の調査では、二重に巡る堀や土橋、井戸などの遺構が見つかり、曲輪の存在が明らかになりました。平成16年度の調査では、方形区画の屋敷跡が見つかり、願海寺城の城下町が広がっていたと推測されました。

2. 平成22年度の調査

下水道工事に伴う調査で、曲輪を囲む堀（薬研堀・箱堀）を確認し、曲輪内で井戸や礎石建物（石臼を礎石に転用）などが見つかり、規模や内部構造が明らかになってきました。堀や井戸からは、中世土師器・越前焼・瀬戸美濃焼・漆器椀・壇（焼レンガ）・被熱礎などが出土しました。また、金銀または銅が付着したとりべ（鋳型に溶融した金属を流し込むための柄杓型の容器）が出土しており、曲輪内で鋳造を行い、鍍金や彫金などを施していたと考えられます。願海寺が存在したことから、寺院関連の鋳物を作っていた可能性があります。

（堀内大介）



薬研堀

1. 館本郷 II 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市南部の井田川左岸扇状地、八尾町館本郷・高善寺地内の東西約400m、南北約600mの範囲に広がっています。

平成8年度の調査で、弥生時代終末期（1,800年前）の土器溜まり3ヶ所・掘立柱建物1棟・土坑1基など、古代（8世紀前半～10世紀前半）の掘立柱建物3棟・柵状遺構1・溝及び土坑が多数見つかり、土器溜まりから祭祀に使われた弥生土器が大量に出土しました。首長クラスの人々が集落の境界で、恒常に祭祀を行っていた痕跡と推測されます。

遺跡の北2kmには、弥生時代終末期～古墳時代前期の国史跡「王塚・千坊山遺跡群」があり、この遺跡は同時代の集落遺跡として関係が注目されます。

2. 調査のあらまし

今回の調査地は遺跡の南端～ほぼ中央に位置し、調査地周辺の標高は42m前後です。

県営ほ場整備事業に先立ち調査を行いました。

発掘調査の結果、弥生時代終末期～近世の遺構が見つかりました。

3. 弥生時代の遺構

弥生時代の遺構は、溝1・土坑3・ピット3が見つかりました。どの遺構の深さも浅いことから、これらの遺構は短期間に営まれたキャンプサイトのような性格であったと考えられます。

出土した弥生土器は甕・壺が多くを占め、赤く塗った土器など祭祀に使われた土器が1点も出土していません。これに対して平成8年度調査区の土器溜まりから出土した土器は、赤く塗った土器の比率が22.9%、祭祀に使われた土器の比率が35.3%と高い比率を占めています。今回の調査区は、首長の祭祀場の周辺で普段の生活を支えた集落の一部分と考えられます。



弥生時代遺構の発掘作業

4. 中・近世の遺構

近世の建物根石と考えられる遺構は、根石A-B間が1.8m、B-C間が2.4mです。調査区の幅が狭小のため、全容は不明ですが、根石の大きさから推測できる柱の太さからみて、簡易な建物（作業小屋・倉庫など）と推定されます。

近所に住むの方からの聞き取りによれば、田を直す際に埋納錢が出土したことです。今回の調査区では青磁なども出土しており、近隣に中世～近世の遺構が存在している可能性が高いでしょう。

このほか、時代は不明ですが、握り拳大の礫が312個埋まっていた土坑や、人頭大の礫が3つ、ほぼ等間隔に並んでいる遺構なども見つかりました。 (細辻嘉門)

1. 砂川カタダ遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市街地から南西約 11 km の富山市東老田地区内に所在する縄文・弥生・奈良・平安・中世にわたる集落です。遺跡は吳羽丘陵西側に広がる射水平野の南奥部に位置し、現在の集落の西側を鍛治川が北流します。

平成 17 年度の調査では、古代の溝が見つかり、弥生土器・土師器・須恵器・鉄滓が出土しました。

2. 調査のあらまし

今回の調査区は遺跡のほぼ中央に位置します。周辺の標高は約 7m です。

個人住宅建築に先立ち調査したところ、弥生時代後期後半～終末期、平安時代の集落が見つかりました。

3. 弥生時代の遺構

調査区南端で見つかった溝は鍵の手状あるいは S 字状に屈曲し、東から西に向かって深くなっています。断面は台形で、堆積を観察すると一度に埋まって廃絶したと考えられます。

平面形から、特殊な用途のために掘られた可能性も推測されます。時期は弥生時代終末期と考えられます。

調査区の東寄りでは同じ規模・堆積の土坑が 3 つ見つかりました。このうちの 1 つには柱の痕跡を確認しました。他の土坑では柱の痕跡が認められませんでしたが、柱穴と考えられます。それぞれの柱間が 4.7 m・2.4 m と離れており、同じ掘立柱建物の柱穴だった可能性は低いと考えられます。時期は弥生時代後期後半～終末期と考えられます。

4. 平安時代の遺構

調査区東南端では平安時代の土坑が見つかりました。平面形は隅丸方形で、床面は平らですが、柱穴・炉・焼土・貼床などが認められないため、竪穴建物などの居住施設の可能性は低いと考えられます。須恵器・土錘が出土しました。

今回の調査では、東老田地区に広がる弥生・平安時代の集落を確認し、当時の人々の生活の様子を明らかにすることができました。

(細辻嘉門)



調査区全景（東から）



弥生時代溝 発掘作業

1. 調査のあらまし

この遺跡は、射水平野東端の旧神通川左岸段丘（標高 5~6m）にあります。現在の神通川から西へ 2km に位置する、縄文時代から江戸時代の集落です。

調査区のある寺島地区は、戦国時代の守護代神保氏の被官である国人寺嶋氏の出自の地と推測されていますが、その館の位置などは分かっていませんでした。

個人住宅建設に先立ち、190 m²の発掘調査を行いました。平安時代の竪穴建物 1 棟や室町時代の大溝を含む溝 6 条、土坑 19 基などが見つかりました。弥生時代～近世の遺物が出土しました。

2. 館を区画した堀か

今回の調査では、調査区南寄りで中世の館の堀とみられる溝が見つかりました。長さは 13.2m 以上、幅 3.5~4.0m、深さ 1.6m で東西方向に伸びています。古い段階の溝と新しい段階の溝が重なっていました。

古い段階の溝の断面形は U 字形です。溝の途中には約 1.7m の土橋が溝を横断していました。溝の南側斜面には犬走りとみられる幅約 0.6m の段が設けられていました。以上から、この溝は館の曲輪を区画する溝と判断されます。新しい段階の溝は深さ 1m で、断面形は V 字形です。古い段階の土橋を削って作られていました。

双方の溝から 13 世紀代の珠洲焼や中世土師器などが出土しました。新しい段階の溝は古い段階の溝を埋め、時間をおかげに造られたとみられます。

3. 中世の「寺島館跡」

今回見つかった堀とその周辺の旧地割図から、この付近に何らかの城館があつたと推測されます。

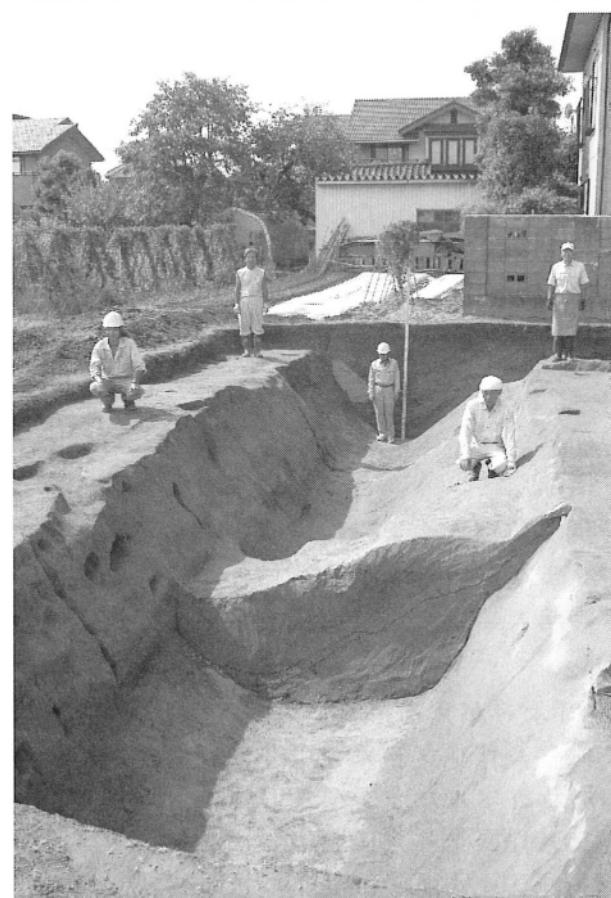
この区画溝は寺嶋氏の居館が文献に登場する 200 年前の遺構です。この館跡は旧公図に表されている地割から、約 60m 四方の範囲が復元されます。これを「寺島館跡」と呼ぶこととします。

今後、周辺の調査によって、この館跡の性格を明らかにしたいと思います。

(長谷部真吾・鹿島昌也)



発掘調査区全景（北から）



堀の土橋断面（手前の深い部分が古い溝）

1. 小竹貝塚のあらまし

この貝塚は、呉羽町北に所在する縄文時代前期（約 6,000～5,500 年前）の貝塚です。

平成 20・21 年度に新鍛治川改修工事に伴う工事立会調査を行いました。北陸新幹線建設に伴う財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所による調査成果も踏まえると、遺跡の全体構造を次のように推測できます。北西部から南部にかけて貝層が広がり、中央部には竪穴建物、大型土坑、集石遺構などの居住域が広がっています。南東部には木製品加工場・土器廃棄場として利用した谷があります。

貝層では、縄文時代前期として全国最多の 70 体を超える埋葬人骨が見つかり、前期縄文人の集団の生物学的実像を復元できると期待されています。



調査区位置図

2. 平成 22 年度の調査・整理

平成 20・21 年度に引き続き、工事立会調査を行いました。居住域では大型土坑・穴などの遺構が見つかり、縄文土器・石槍・石錐などが出土しました。

また、平成 21 年度に引き続き、緊急雇用創出事業交付金の交付を受けて、貝層土壤の洗浄を行い、縄文土器、石器、骨角器、骨、木の実など多様な遺物を分類しました。さらに、土器の復元、石器・骨角器の実測などの作業も行いました。

3. 小竹貝塚 1 号人骨の復元

国立科学博物館での復元・分析の結果、小竹貝塚 1 号人骨は、縄文時代の人骨として、富山県で初めて顔を復元できた例となりました。今後の研究のため、精巧なレプリカを製作しました。

1 号人骨の頭骨は、頭骨最大長（頭の前後径）=165mm、頭骨最大幅（頭の横幅）=137mm、顔高（鼻の付け根から下顎の下端まで）=約 105mm です。また、歯の磨り減り具合や頭骨の特徴から、成人女性と推定されました（国立科学博物館人類研究部 溝口優司部長の鑑定による）。



小竹貝塚 1 号人骨の計測値

4. 「よみがえる小竹貝塚縄文人」展の開催

1 号人骨レプリカを中心に、出土遺物や人骨分析の展示パネルなどを展示した「よみがえる小竹貝塚縄文人」展を 8 月に開催しました。

2 回の展示解説会を行い、延べ 970 名の市民が来場されました。小竹貝塚に対する関心の高さがうかがえます。
(堀内大介)



展示解説会の様子

1. 総曲輪遺跡のあらまし

遺跡は、旧神通川右岸の河岸段丘、江戸時代の富山城・城下町の下層にあります。これまでに、城址公園整備や中心市街地再開発、市内電車環状線化事業に先立つ調査で、縄文時代中期～中世の遺物・遺構が見つかっています。

2. 墨書土器「宅持」の出土

平成22年度に城址公園西側の芝生広場整備工事に伴う調査で、奈良時代後期（8世紀第3四半世紀（750～775年頃））の須恵器が出土しました。有台杯の底部に墨で「宅持」と書かれた文字が見つかり、その横には漆とみられる付着物も分かりました。

富山大学人文学部鈴木景二教授のご教示によると、「宅持」は「やかもち」と訓むようです。奈良時代に越中国守として赴任（746～751年）した「大伴家持」を連想しますが、ここに書かれた文字は、一般的な人名とみられます。

奈良時代の人名として、「小治田朝臣宅持」や「池田朝臣宅持壳（やかもちめ＝女性）」などがみられ、当時、「宅持」という名前をつける流行があったようです。

墨書土器が出土したことは、漆のような付着物があることと合わせ、富山城付近に官衙関連施設の存在をうかがわせます。

3. 「家」^{いへ}と「宅」^{やけ}

それでは、「家」と「宅」に違いはあったのでしょうか。当時、家族という人間集団を指す場合に「家」を用い、建物とその敷地を指す場合には「宅」を用い、明確に使い分けていたとされています

（吉田 孝『律令国家と古代の社会』岩波書店）。「家持」や「宅持」が出生時、「家（家族）」が持てるようとにかく、「宅（建物・すまい）」が持てるようという願いを込め、名前がつけられたと推測できます。

大伴家持は、748年春、越中国内を巡回し、各地で『万葉集』に残る歌を詠みました。本遺跡の北に接して「婦負河」（巻17-4023）と詠まれた旧神通川が流れ、「石瀬野」（巻19-4145）や「伊波世野」（巻19-4249）と詠まれた古代新川郡石瀬郷は、本遺跡北方にあったとされます。

越中万葉ゆかりの地で「宅持」墨書土器が出土したことから、近くを巡回した大伴家持にちなんで、当地域に同じ訓み方をする「宅持」と名前をつけられた人物がいたと推測することができます。（鹿島昌也）



総曲輪遺跡の範囲



出土した墨書土器

1. 調査のあらまし

城址公園整備工事に伴い、西ノ丸跡にあたる芝生広場南側において工事立会調査を実施しました。この調査により、煉瓦積みの土台部分が見つかりました。この場所には、明治42(1909)年に建築された県会議事堂（木造2階建ての西洋建築、土台は煉瓦造）がありました。今回見つかった土台部分は、この議事堂の南側の一部と判明しました。

この建物では昭和10年に新県庁に議事堂が移るまで56回の県会が開催され、その後「大正会館」と名前を変え、講演会や会議などに利用されました。県立図書館や市立図書館も設置され、広く市民に利用されましたが、昭和20年の富山大空襲で焼失しました。

2. 県会議事堂建物の土台

①本館正面建物

竣工時の議員控室、正副議長室の一部が見つかりました。議員控室の広さは7×16m(112m²:床面積)と判明しました。煉瓦積みの土台は、一番底に拳大の栗石が詰められ、その上にコンクリート基礎、さらにその上に煉瓦が積まれていました。煉瓦積みは幅70cm、高さ24~30cm(煉瓦4~5段分)で、イギリス積みと呼ばれる積み方です。

②本館裏面建物

竣工時の守衛室などが見つかりました。東西約6m×南北約10mの範囲で確認され、四角く囲まれた一室分の広さが3.3m×5m(16.5m²:床面積)と判明しました。

③付属建物

議事堂の南西で別棟の煉瓦積みの土台部分が見つかりました。東西9.2m×南北11.3m(104m²:床面積)の範囲です。『富山県政史』には議事堂の付属建物として「湯沸所・汽罐室(ボイラーハウス)」が建てられたとあり、明治期の写真にも煙突を伴う建物が写っています。通路状に煉瓦を敷き詰めた部分があり、煙道と思われます。煙道部の床や壁面は黒くすすけ、一部に耐火煉瓦が用いられていました。このことから、この建物が議事堂のボイラーハウスであることがわかります。残りの良い所で13段分の煉瓦積みを確認しました。



付属建物



竣工時の本館正面建物（富山市郷土博物館蔵）



本館正面建物の南東角

今回の調査では、明治・大正期の古い写真でしか見ることのできなかった旧県会議事堂の位置を特定でき、土台部分の基礎構造を確認することができました。富山の近代化の歴史を知る上で良好な資料です。

(小林高太)

1. 山の遺跡を見つける

分布調査とは、田畠や山間部を歩いて地表に落ちている土器のかけらや人工的に造られた地形を見きわめ、遺跡を見つける調査です。平成 22 年度は、山の奥深くに分け入って鉱山跡を見つけたり、薬師岳に登って遺物を採集したりする調査を行いました。

2. 亀谷銀山遺跡

亀谷銀山は、亀谷集落から奥の和田川沿いの山間部にありました。文献によると天正 6 (1578) 年に発見され、江戸時代初期（慶長期）に最盛期を迎えたようです。その後は産出量が衰えつつも経営は続き、明治時代に三井鉱山株式会社等の所有となりましたが、大正時代に閉山しました。

調査では、鉱石を探るための坑道の入口とみられる開口部が 15 地点で見つかりました。多くが谷の斜面に掘られています。また、地表に露出している鉱脈を探った露頭掘りの跡もあります。このほか、鉱石を製鍊する際に生じた不純物を捨てた場所や鉱石を運搬した道、軌道の跡も見つかりました。

これまでほとんど不明だった亀谷銀山の様相の一端を把握できました。今後は、より詳しい調査で時期や性格を特定することが課題です。



坑道の入口（人の足元の所）

3. 薬師岳

標高 2,926m の薬師岳は、山岳信仰の対象となり、室町時代から修行や信仰のために人々が登ったと伝えられます。

調査の目的は、山頂部でそうした信仰を物語る遺物を採集することです。調査の結果、登拝した人が奉納した剣の模造品をはじめ、過去の山頂の祠で使われた釘、銅製品の破片、青磁等が見つかりました。青磁は室町時代に遡る可能性があり、江戸時代より前の活動を示す数少ない遺物かもしれません。

この他、佐伯哲也氏の踏査では、奉納された雁股鏡や和鏡、護摩を焚くときの火打鎌等も採集されており、信仰や修行の様子を伝えてています。

また、山頂の西斜面にはかつての祠の板材・

角材が散乱していました。明治時代以前に建っていた祠材と考えられます。

薬師岳だけでなく、立山や大日岳などでも信仰遺物がみられます。3,000m 級の山々に抱かれた富山県ならではの昔人の痕跡といえるでしょう。

(野垣好史)



薬師岳山頂で採集した遺物

平成22年度埋蔵文化財センター事業

1 埋蔵文化財調査

発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果	遺跡の種類
今市(201010)	寺島	自己用住宅建築	190	平安堅穴住居、中世土坑、中世溝、室町大溝／弥生(終)弥生土器、平安須恵器、平安土師器、中世土師器、中世珠洲焼、古代炉壁、平安製塙土器	集落・城館
百塚住吉D (201183)	八ヶ山、寺島	県営基幹農道整備事業	900	奈良～平安溝、奈良～平安土坑、江戸井戸、不明ピット、不明井戸／縄文(晩)縄文土器、弥生土器、飛鳥白鳳～平安須恵器、飛鳥白鳳～平安土師器、奈良～平安土製品、奈良～平安土鍤、中世珠洲、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、不明木製品、不明曲物、不明骨	集落
百塚(201189)	百塚	主要地方道富山八尾線道路改良工事	2,160	縄文(後～晩)土坑、弥生(後～終)方形周溝墓、弥生(後～終)円形周溝墳、古墳(初～後)方墳、古墳(初～後)円墳／縄文(後～晩)縄文土器、磨製石斧、打製石斧、凹石、骨片、炭化物、ヒスイ製垂飾、弥生(後～終)弥生土器、古墳(後)須恵器、古墳(後)馬具	集落・古墳
砂川カタタ (201284)	東老田	自己用住宅建築	144.60	弥生溝、弥生土坑、弥生ピット、古代土坑、中世ピット／弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世珠洲	集落
舎本郷II(361068)	八尾町高善寺	県営ほ場整備事業	331.91	弥生終土坑、弥生終溝、古代土坑、中世土坑、中世溝、不明溝、不明ピット／弥生(終)弥生土器、古代須恵器、古代土師器、中世珠洲、中世土師器、中世青磁	集落
計5件			3,726.51		
21年度 换算(3月)					
百塚(201189)	百塚	主要地方道富山八尾線地内道路改良工事に伴う	60	土坑、小穴、縄文(後～晩)溝、近代土坑／縄文(後～晩)縄文土器、江戸・近代陶磁器	集落
富山城跡(201397)	本丸	日本庭園池泉整備	370	戦国溝、戦国土坑、江戸溝、江戸土坑、江戸井戸、明治建物、明治廃棄土坑／古代須恵器、中世かわらけ、中世珠洲、中世瀬戸美濃、中世青磁、中世瓦器、中世八尾、中世越前、中世五輪塔、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸唐津、江戸瓦、江戸釘、江戸石臼、江戸土壁、明治瓦	城館

試掘調査 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は立会調査

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
岩瀬天神(201001)	岩瀬古志町	自己用住宅建築	370.24	遺跡なし
吳羽野田(201006) ＊	吳羽野田	市道野田2号線道路改良工事	57	遺跡なし
打出(201009)＊	打出	市道打出3号線道路改良工事	69	遺跡なし
今市(201010)	八町	自己用住宅建築	284.01	遺跡なし
今市(201010)	八町	自己用住宅建築	722.03	遺跡なし
今市(201010)	寺島	自己用住宅建築	365	弥生(終)溝、弥生(終)土坑、弥生(終)ピット、中世溝／弥生(終)弥生土器、中世土師器
今市(201010)	今市字居繩	店舗改築	2,998.61	遺跡なし
今市(201010)	今市字東沼	自己用住宅建築	360.73	遺跡なし
今市(201010)＊	布目	市道布目10号線道路改良工事	17.1	遺跡なし
今市(201010)＊	布目	布目東排水路改良工事	71	遺跡なし
今市(201010)	八町	自己用住宅建築	130.86	遺跡なし
四方西野割 (201011)	四方字大江添	集合住宅建築	725.42	遺跡なし
四方西野割 (201011)	四方字大江添	集合住宅建築	445.71	遺跡なし
四方背戸割 (201015)	四方荒屋字江代	自己用住宅建築	169.86	遺跡なし
草島(201016)＊	草島	物置建築	13.25	遺跡なし
草島(201016)	草島	自己用住宅建築	276.9	遺跡なし
草島(201016)	草島字鶴田	工場用倉庫増築	173.56	遺跡なし
米田大覚(201021)	米田町1丁目	埋設物調査	22,197	平安溝、平安土坑、平安ピット／平安土師器、平安須恵器
米田大覚(201021) ＊	米田町1丁目	自己用住宅建築	12	中世溝、中世ピット／古代須恵器、中世土師器、江戸土製品
浜黒崎町畠 (201031)	浜黒崎字松下	分団器具置場建て替え工事	380.66	遺跡なし
高来(201033)	浜黒崎字高来	墓地造成工事	400	遺跡なし
高来(201033)＊	横越	基盤整備促進事業(かんがい排水)横越大川排水路改修第3工区工事	395	不明土坑、不明溝、不明ピット／江戸越中瀬戸
浜黒崎野田II (201034)＊	浜黒崎	市道浜黒崎横越線道路改良工事	80	遺跡なし
宮条南(201043)	野中	自己用住宅建築	200.9	江戸溝／江戸陶磁器
水橋荒町・辻ヶ堂 (201044)	水橋辻ヶ堂字牛ノ毛	グループホーム建築工事	920	縄文土器
水橋荒町・辻ヶ堂 (201044)	水橋辻ヶ堂字荒町	駐車場造成工事	836	縄文溝／縄文土器、弥生土器

水橋荒町・辻ヶ堂 (201044) *	水橋辻ヶ堂	携帯電話無線基地局建築工事	1. 44	遺跡なし
水橋永割(201048)	水橋舘町	自己用住宅建築	350. 75	遺跡なし
小出城跡(201055)	水橋小出	駐車場造成工事	164	江戸陶磁器
小出城跡(201055)	水橋小出	携帯電話基地局	250. 01	遺跡なし
吳羽本郷(201062)	本郷中部	自己用住宅建築	970	遺跡なし
吳羽本郷(201062)	本郷中部	市道吳羽本郷17号線道路改良工事	135	不明溝／なし
*				
願海寺城跡 (201066) *	願海寺	下水道布設工事	347	中世堀、中世井戸、中世土坑、中世溝、中世ピット／古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世越前、中世瀬戸美濃、中世漆器椀、中世木製容器、中世曲物、中世弧状木製品、中世木簡、中世鉢滓、中世箸、中世五輪塔(火輪)、中世石臼、中世取瓶、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸唐津
願海寺城跡 (201066) *	願海寺	下水道布設工事	150	遺跡なし
願海寺城跡 (201066) *	願海寺	下水道布設工事	289	戦国堀、江戸堀、江戸井戸／江戸唐津、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器
西二俣(201067) *	西二俣	下水道布設工事	80	遺跡なし
西二俣(201067)	西二俣	駐車場造成工事	658	不明土師器
小竹貝塚(201105)	吳羽町北	新鍛治川第10工区改良工事	165	縄文(前)土坑、縄文(前)溝、縄文(前)ピット／縄文(前)縄文土器、縄文(前)石縄、縄文(前)石錐、縄文(前)敲石、古代須恵器
*				
小竹貝塚(201105)	吳羽町北	PC桁製作ヤード造成	4, 338	縄文(前)縄文土器、縄文(前)磨製石斧、縄文(前)剥片、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世瀬戸美濃、江戸伊万里、江戸越中瀬戸
*				
極楽寺廃寺 (201106) *	北代	市道北代3号線道路改良工事	51	遺跡なし
北代加茂下Ⅲ (201120)	北代新	埋設物調査	922	遺跡なし
山寺谷Ⅱ(201137)	吳羽町	自己用住宅建築	602. 3	遺跡なし
百塚住吉(201187)	宮尾	自己用住宅建築	424. 14	古墳周溝／なし
百塚(201189)	百塚	農作業所建築	315	江戸溝／江戸陶磁器
百塚(201189) *	百塚	主要地方道富山八尾線道路改良工事付帯工事	31	弥生(終)周溝(方形周溝墓)／弥生(終)弥生土器
下富居(201201)	下富居1丁目	自己用住宅建築	225. 76	遺跡なし
下富居(201201)	下富居1丁目	自己用住宅建築	231. 29	遺跡なし
飯野新屋(201203)	水落字高田割	トラックターミナル建築工事	27, 676	弥生(終)弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲
上飯野(201207)	上飯野字前田	宅地開発工事	3, 484. 23	中世土師器、中世珠洲
水橋金広・中馬場 (201251)	水橋中馬場	北陸新幹線PC主析製作・架設工事	2, 416	弥生～中世溝、弥生～中世柱穴／弥生土器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲
水橋金広・中馬場 (201251) *	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線道路改良工事	24	不明土坑／なし
中老田(201270) *	中老田 外	下水道布設工事	10	江戸溝／江戸越中瀬戸
砂川カタダ (201284)	東老田	自己用住宅建築	330	弥生土坑、弥生溝、弥生ピット、古代土坑、古代溝、古代ピット／弥生土器、古代土師器、不明鉄滓
砂川カタダ (201284) *	東老田 外	下水道布設工事	333	遺跡なし
西金屋・西金屋窯 跡(201293)	古沢	自己用住宅建築	359. 09	縄文(中)土坑、平安土坑、平安ピット／縄文(中)縄文土器、平安土師器、平安須恵器、不明キセル
住吉連星神社南 (201330) *	住吉	市道住吉11号線道路改良工事	96	遺跡なし
金草電化農場前 (201333) *	住吉	下水道布設工事	195	不明土坑／なし
白鳥城跡(201338)	吉作	水道遠方監視設備工事	120	不明空堀／なし
*				
杉谷古墳群 (201362)	杉谷	電機室新築工事	120	遺跡なし
大畠城跡(201396)	五福	アパート建築工事	198. 14	遺跡なし
富山城跡(201397)	丸の内1丁目	経牛ガス管入替工事	80	遺跡なし
*				
富山城跡(201397)	本丸	芝生広場整備	4, 200	近代県会議事堂、近代付属建物(汽かん室)、江戸石列、江戸堀、江戸溝／古代須恵器、古代墨書き土器、中世土師器皿、中世越前、中世珠洲、中世瀬戸美濃、江戸土師器皿、江戸伊万里、江戸唐津、江戸越中瀬戸、江戸銭貨、江戸瓦、近代レンガ、近代陶磁器、近代瓦、近代鉄釘
富山城跡(201397)	丸の内3丁目	自己用住宅建築	181. 69	近代陶磁器
富山城跡(201397)	本丸	公園園路整備	550	遺跡なし
中世富山城推定地 (201398) *	千石町5丁目	擁壁設置工事	184. 19	遺跡なし
新庄城跡(201403)	新庄町	小学校増築工事	63. 6	遺跡なし
*				
開ヶ丘ヤシキダ (201445) *	開ヶ丘	市道西押川三熊線道路改良工事	175	遺跡なし
杉谷A(201478) *	杉谷	駐車場造成工事	4, 550	遺跡なし
黒瀬大屋(201479)	黒瀬字大屋割	アパート建築工事	898	古代土師器
黒瀬入屋(201479)	黒瀬字入屋割	自己用住宅建築	310	遺跡なし
黒瀬大屋(201479)	黒瀬	市道黒瀬29号線道路改良工事	50	遺跡なし
*				

黒瀬大屋(201479) *	黒瀬字大屋割	社屋建築工事	10	古代土坑、古代溝、古代ピット、江戸溝／古墳土師器、飛鳥白鳳須恵器、古代須恵器、古代土師器、江戸陶磁器
黒瀬大屋(201479) *	黒瀬字大屋割	チャペル建築工事	24	古代溝、江戸溝／古墳土師器、飛鳥白鳳須恵器、古代須恵器、古代土師器、江戸陶磁器
黒崎種田(201480)	黒崎字寺田割	共同住宅建築	994	古代土坑、古代柱穴／古代土師器、古代須恵器
黒崎種田(201480)	黒崎字種田割	埋設物調査	815	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木割	集合住宅建築	625. 48	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木割	介護事業所建築工事	1, 653	遺跡なし
太田本郷城 (201494)	太田	自己用住宅建築	305. 22	遺跡なし
友杉(201500) *	友杉字北浦割	携帯電話基地局建設	1. 44	遺跡なし
二俣北(201515) *	二俣	市道小杉二俣線道路改良工事	65	遺跡なし
石田打宮(201518)	小杉	自己用住宅建築	460	遺跡なし
吉岡(201525)	吉岡	LPガス庫設置	507	古代土坑、古代ピット／古代須恵器、古代土師器、縄文土器
吉岡(201525)	吉岡	自己用住宅建築	2, 093. 67	遺跡なし
辰尾(201531)	上熊野	自己用住宅建築	1, 692. 87	遺跡なし
辰尾(201531) *	辰尾 外	上水道送水管布設工事	21. 4	遺跡なし
辰尾(201531)	辰尾	埋設物調査	330. 85	遺跡なし
辰尾(201531) *	辰尾 外	市道官保辰尾1号線外2線道路改良工事	165	遺跡なし
布市北(201532)	布市	農業用倉庫建設	862	遺跡なし
壇ノ山(201552)	月岡町4丁目	グループホーム建築工事	703	遺跡なし
大井(201574) *	大井	市道月岡大井線道路改良工事	61	遺跡なし
大井(201574)	中布目	重機置場設置・資材置場設置	415	遺跡なし
大井(201574)	大井	駐車場造成工事	800	遺跡なし
金屋向田(201587)	寺町字太平下	自己用住宅建築	577. 12	古代土師器、古代須恵器、江戸陶磁器
吳羽山古道 (201613) *	住吉	下水道布設工事	494	遺跡なし
吳羽山古道 (201613)	住吉	駐車場造成工事	876	古代土師器、古代須恵器
中大久保(301008)	中大久保字掛坂 割	型枠倉庫増築工事	700	遺跡なし
布尻 A(301031) *	町長	町長(その2)送水管布設工事	61	遺跡なし
万開(301080) *	万願寺字神道坂 割 外	後谷川改修工事	44	遺跡なし
蔵王神社(361061) *	八尾町福島字畑 田	データ通信用アンテナ取付のコンクリート柱設置	4	遺跡なし
館本郷 II(361068)	八尾町高善寺	自己用住宅建築	320	遺跡なし
館本郷 II(361068)	八尾町高善寺字 砂田割	自己用住宅建築	112. 12	遺跡なし
館本郷 II(361068) *	八尾町高善寺	県営ほ場整備事業	35. 42	遺跡なし
水谷(361080)	八尾町水谷	自己用住宅建築	339. 2	遺跡なし
各願寺前(362025)	婦中町長沢字新 町	自己用住宅建築	634. 42	中世土師器、中世珠洲
古里保養園前 (362026)	婦中町新町	公共下水道接続事業	30	遺跡なし
千坊山(362029)	婦中町長沢	自己用住宅建築	845. 23	遺跡なし
下邑東(362042) *	婦中町羽根	下水道布設工事	95	遺跡なし
富崎(362050) *	婦中町富崎	下水道布設工事	612	遺跡なし
翠尾 I・南部 I (362129)	婦中町高日附	自己用住宅建築	495	遺跡なし
小長沢 II(362146) *	婦中町小長沢	婦中町小長沢配水管布設工事	30	遺跡なし
千里 F(362147)	婦中町千里	自己用住宅建築	449. 36	遺跡なし
鍛冶町(362150)	婦中町長沢	自己用住宅建築	1, 117. 35	遺跡なし
寺家・浜子 (362155)	婦中町浜子	土砂採取工事	5, 611	古代ピット、古代土坑、中世ピット／縄文土器、弥生土器、平安須恵器、平安土師器、平安土製品、中世土師器、中世珠洲
寺家・浜子 (362155)	婦中町浜子	土砂採取工事	21, 240	遺跡なし
榆原(364012)	榆原字中島	自己用住宅建築	968. 02	遺跡なし
計115件(*47)			138, 271. 64	
21年度 補遺(3月)				
岩瀬天神(201001)	岩瀬天神町	自己用住宅建築	81	遺跡なし
今市(201010)	今市字天池	自己用住宅建築	683	遺跡なし
今市(201010)	布目	自己用住宅建築	490	遺跡なし
浜黒崎野田 II (201034)	浜黒崎	資材置場造成	2, 564	古代土師器
願海寺城跡 (201066) *	願海寺 外	下水道布設工事	2, 136	中世～江戸溝、不明溝、不明ピット、不明土坑／中世珠洲、中世越中瀬戸、不明銅製品
東老田 I(201072) *	東老田	下水道布設工事	485	遺跡なし
北代東(201126)	長岡字杉林	自己用住宅建築	283	遺跡なし
中富居(201206)	上富居2丁目	自己用住宅建築	258	遺跡なし
中世富山城推定地 (201398)	千石町4丁目	自己用住宅建築	299	遺跡なし
中名 V(362121)	婦中町中名	自己用住宅建築	300	遺跡なし

2 遺跡地図管理

富山市内の埋蔵文化財包蔵地の総数は1,046箇所、面積は75.08k m²(平成23年3月現在)です。これは富山市全域の面積1,241.85k m²の約6.05%にあたります。これらの埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に登載され、埋蔵文化財センターをはじめ、市の開発部局、市立図書館、各教育行政センターで閲覧することができます。

- ①『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図(改訂版)1.旧富山市域』 平成17年4月
- ②『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図(改訂版)2.旧大沢野町・大山町・八尾町・婦中町・山田村・細入村域』 平成17年4月
- ③『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図(改訂2版)大沢野地域』 平成19年3月
- ④『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図(改訂2版)大山地域』 平成20年3月
- ⑤『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図(改訂2版)婦中地域』 平成21年3月
- ⑥『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図(改訂2版)細入・山田地域』 平成22年3月
- ⑦『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図』(②・④~⑥)の、八尾・婦中・山田・大山地域の一部を更新 平成23年3月

平成22年度の分布調査とその他の調査等による埋蔵文化財包蔵地の新規登録、遺跡範囲の変更等

(1) 分布調査による新規登録

大山地域

No.	遺跡名(遺跡番号)	所在地	種別	面積(m ²)	時代(時期)
1	薬師岳山頂遺跡(302086)	有峰	祭祀	4,130	中世・近世

八尾地域

No.	遺跡名(遺跡番号)	所在地	種別	面積(m ²)	時代(時期)
1	下笛原塚(361089)	八尾町下笛原	塚	2,250	中世
2	布谷駒平遺跡(361090)	八尾町布谷	散布地	2,750	古代・中世・近世
3	布谷上城生遺跡(361091)	八尾町布谷	散布地	15,000	縄文
4	柄折ショク岩(361092)	八尾町柄折	祭祀	80	不明
5	専福寺廃寺(361093)	八尾町二屋	社寺	4,250	中世
6	内名谷内遺跡(361094)	八尾町内名	集落・墓	2,000	中世

婦中地域

No.	遺跡名(遺跡番号)	所在地	種別	面積(m ²)	時代(時期)
1	大瀬谷太郎塚(362174)	婦中町大瀬谷	塚	700	中世
2	道島トカゲ塚(362175)	婦中町道島	塚	80	中世～近世

山田地域

No.	遺跡名(遺跡番号)	所在地	種別	面積(m ²)	時代(時期)
1	中瀬権現塚(363017)	山田中瀬	塚	80	中世
2	牧五人塚(363018)	山田牧	塚	80	中世

(2) 分布調査による遺跡範囲の変更等

大山地域

No.	遺跡名(遺跡番号)	面積(k m ²)	備考
1	亀谷銀山遺跡(302055)	26.88	西側に範囲拡大

(3) その他の調査等による新規登録・変更

①新規登録

No.	遺跡名(遺跡番号)	面積(m ²)	備考
1	富山藩主前田家墓所 (長岡御廟所)(201620)	12,400	近世

2	四方沖海底遺跡 (201621)	40,000	江戸時代
3	羽根上平遺跡 (362173)	8,000	縄文時代
4	町村大野口遺跡 (201622)	4,000	中世

②遺跡範囲の変更等

No.	遺跡名（遺跡番号）	面積（m ² ）	備考
1	館本郷II遺跡 (361068)	227,250	範囲拡大
2	中沢・洞遺跡 (364035) <small>ほら</small>	5,000	名称変更（旧称：中沢遺跡）
3	西金屋長尾塚古墳 (201298)	2,800	範囲移動
4	直坂I遺跡 (301019)	44,000	範囲拡大
5	直坂V遺跡 (301059)	24,000	範囲縮小
6	王塚古墳 (362030)	6,000	範囲拡大
7	向野塚墳墓 (362144)	1,896	範囲変更
8	六治古塚墳墓 (362145)	2,490	範囲拡大
9	勅使塚古墳 (362031)	23,000	範囲拡大
10	富崎墳墓群 (362153)	17,000	範囲拡大

3 展示・普及

(1) 越中と美濃を結ぶ考古展Ⅱ「城と都市—遺跡から見た戦国と江戸—」（詳細は2頁参照）

富山市佐藤記念美術館 平成22年9月11日～10月24日 観覧者数2,049名

(2) 発掘速報展 2009Part2 「富山市・1万年の時間旅行」巡回展

①富山市安田城跡資料館 平成22年4月20日～

5月9日

※今市遺跡出土絵画土器を対象に実施した「何にみえるかな？アンケート」で公募した絵画土器のモチーフについて、来場者の意見を集計したところ、「鳥」や「龍」といった意見が多く寄せられました。

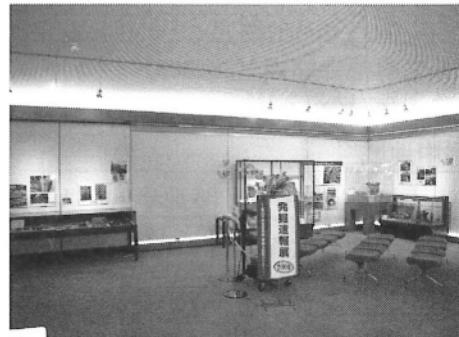
観覧者数440名

展示遺跡 平岡遺跡・春日遺跡・今市遺跡・百塚遺跡・黒瀬大屋遺跡・呉羽本郷遺跡・

八ヶ山A遺跡・富山城跡

主要展示品 弥生時代の絵画土器（今市遺跡）・ガ

ラス小玉（百塚遺跡）・幕末期の井戸調査写真パネル（富山城跡）



発掘速報展 2009Part2 巡回展
(安田城跡資料館)

②富山市猪谷関所館 平成22年6月1日～6月27日 観覧者数400名

※平成21年度に細入地区および山田地区で実施した分布調査で、新たに発見された遺跡・遺物も紹介しました。展示遺跡・主要展示品とも上記巡回展と同様です。

(3) 「よみがえる小竹貝塚縄文人」展（詳細は10頁参照）

※国立科学博物館人類研究部の協力により製作した縄文人骨レプリカを初公開しました。

富山市役所多目的コーナー 平成22年8月24日～8月27日 観覧者数970名

主要展示品 縄文人骨レプリカ（頭骨）・縄文土器・装飾品（耳飾・髪飾・玉）

(4) 発掘速報展 2010「歴史のタイムカプセル 貝塚・古墳・城・近代建築」

富山市役所多目的コーナー 平成23年3月7日～3月11日 観覧者数1,009名

(5) 遺跡発掘調査現地説明会

百塚遺跡 平成 22 年 7 月 31 日 参加者 150 名

富山城跡 平成 23 年 3 月 29 日



百塚遺跡発掘調査現地説明会

(6) 富山城石垣ツアー 平成 22 年 5 月～12 月

参加者 520 名 (8 回開催)

(7) 富山城石垣の刻印を探そう！探検ツアー

平成 22 年 10 月 9 日 参加者 30 名



富山城石垣ツアー

(8) 所管施設・職員兼務施設企画展示

① 北代縄文広場

ミニ企画展「縄文人と色」 平成 22 年 4 月 1 日～
平成 23 年 3 月 31 日

ヒスイ玉、赤色顔料 (ベンガラ・朱・赤漆) で彩色した土器・土製品、朱が付着した磨石、写真パネルから、縄文人の生活と色のかかわりを探りました。

観覧者数 6,725 名 (平成 23 年 2 月末現在)

展示遺跡 北代遺跡、平岡遺跡、二本榎遺跡、北押川 B 遺跡、八町Ⅱ遺跡、浜黒崎野田・平榎遺跡、百塚遺跡

主要展示品 ヒスイ原石・ヒスイ玉未成品・土偶・耳飾・土器・磨石

② 安田城跡資料館

ミニ企画展「富山市の中世集落(4) 八町Ⅱ遺跡」

平成 22 年 4 月 1 日～4 月 18 日

鎌倉産の千鳥紋漆器などの出土品や写真パネルから、鎌倉～戦国時代の民衆の暮らしを紹介しました。

観覧者数 258 名

主要展示品 土器・陶磁器・漆器・木製品



安田城跡資料館ミニ企画展

③ 大山歴史民俗資料館

ミニ企画展「むかしむかしの大山① 縄文人の暮らし」 平成 22 年 4 月 1 日～5 月 9 日

大山地域の縄文時代遺跡に焦点を当て、当時の暮らしを紹介しました。

観覧者数 171 名

展示遺跡 花切西遺跡・花切遺跡・東黒牧上野遺跡・東福沢遺跡・文殊寺碑田遺跡・大川寺西遺跡・大西寺遺跡・原砦跡

主要展示品 縄文土器・石器・土偶・玉類

(9) 出土品貸出

① 富山県埋蔵文化財センター 企画展「速報展 発掘されたとやま」(後期)

会期 平成 22 年 4 月 6 日～7 月 8 日

貸出資料 向野池遺跡 茂呂系ナイフ形石器・立野ヶ原型ナイフ形石器・尖頭器ほか 8 点

開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡 縄文土器・耳栓・琥珀玉ほか 11 点

金屋南遺跡 洲浜秋草双鳥鏡 1 点

② 富山市水橋浄化センター 企画展「水橋荒町・辻ヶ堂遺跡」

会期 平成 22 年 4 月 15 日～平成 23 年 3 月 31 日

貸出資料 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石製帶飾ほか 56 点

③富山市郷土博物館 常設展「各地の中世城館出土品」

会期 平成22年4月24日～平成22年9月5日

貸出資料 太田本郷城遺跡 土師器皿

④射水市新湊博物館 企画展「越中古代の開田図」

会期 平成22年9月3日～10月3日

貸出資料 米田大覚遺跡 墨書き土器2点・石帶1点

豊田大塚・中吉原遺跡 人面墨書き土器1点・人形2点

任海宮田遺跡 墨書き土器3点・石帶1点

柄谷南遺跡 軒丸瓦1点・透彫り製品(複製)1点・鐘状銅製品1点

⑤富山市民俗民芸村考古資料館 ふれあい村まつり

会期 平成22年10月10日

貸出資料 小竹貝塚 繩文人骨(レプリカ)

⑥氷見市立博物館 特別展「山城探訪—よみがえる中世—」

会期 平成22年10月27日～11月7日

貸出資料 白鳥城跡 土師器・青花染付皿・碁石状石器・白鳥城跡模型ほか41点

⑦富山市郷土博物館 常設展「リアルタイム富山城」

会期 平成22年11月20日～平成23年3月31日

貸出資料 富山城跡 中世土師器・瀬戸美濃・青磁・青花ほか11点

⑧上条ふるさとづくり協議会 歴史文化講演会「上条の中世を語る」展示(上条公民館)

会期 平成22年11月14日

貸出資料 小出城跡 中世土師器・越中瀬戸・漆器・曲物・下駄ほか49点

⑨富山市郷土博物館 常設展「各地の中世城館出土品」

会期 平成22年11月20日～平成23年3月31日

貸出資料 小出城跡 鉄砲玉・ウマの橈骨・ウマの第二前臼歯ほか8点

(10)講座

①富山市民大学(市民学習センター)

富山城を掘る

1	古川知明所長	富山城の成立ー中世の富山城ー	5月11日
2	小黒智久主査学芸員	富山城周辺の城館	5月25日
3	古川知明所長	慶長期の富山城と藩政期の富山城	6月8日
4	野垣好史主任学芸員	本丸の石垣ー鉄門石垣と搦手石垣ー	6月22日
5	鹿島昌也主査学芸員	二ノ丸・三ノ丸の石垣 一二階櫓門石垣と大手門石垣ー	7月6日
6	古川知明所長	富山城と船橋	9月7日
7	野垣好史主任学芸員	富山城出土の名品・珍品	9月21日
8	野垣好史主任学芸員	現地学習 ー石垣ツアー・越中と美濃を結ぶ考古展見学ー	10月5日
9	鹿島昌也主査学芸員	まちなか地下1mの城下町	10月19日
10	古川知明所長	幕末から近代の富山城	11月2日

江戸時代のくらし～大奥から町人まで～(陶 智子講師)

10	小黒智久主査学芸員	現地学習(解説補助)	10月1日
----	-----------	------------	-------

日本の歴史

3	藤田富士夫前所長	古代諏訪信仰の形成と高志文化	6月9日
---	----------	----------------	------

②富山市民大学プラネット(大山地域市民センター・婦中ふれあい館ほか)

うまい水のルーツを探る～立山カルデラと水利用～

2	小林高範主査学芸員	暴れ川常願寺川(2)ー治水の歴史ー	5月14日
6	小林高範主査学芸員	有峰の歴史	8月27日

郷土に寄り添う～自然や歴史とのふれあい～

9	小黒智久主査学芸員	婦負地域の王権盛衰史 —弥生～古墳時代の羽根丘陵と吳羽丘陵—	10月 20 日
10	小黒智久主査学芸員	現地学習—発掘出土品が語る弥生・古墳・戦国時代の婦負地域—	11月 10 日

③市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

1	小松博幸主査学芸員	細入地域の遺跡について(細入公民館事業地域高齢者学級「寿学級」・猪谷関所館・30名)	6月 1 日
2	鹿島昌也主査学芸員	富山市内の最新発掘調査情報—百塚遺跡・富山城跡から—(「立山会」親睦会・電気ビル・15名)	8月 24 日
3	堀内大介主査学芸員	小竹貝塚発掘調査(吳羽町自治会会合・吳羽町自治公民館・35名)	9月 2 日
4	小黒智久主査学芸員	五福地区の遺跡と関わる周辺遺跡 (五福校下ふるさとづくり推進協議会歴史講座・五福公民館・25名)	9月 27 日
5	堀内大介主査学芸員	吳羽丘陵周辺の遺跡(吳羽勤労者協議会定期大会・丸富町公民館・20名)	10月 31 日
6	堀内大介主査学芸員	小竹貝塚発掘調査報告(富山市ふるさとづくり連絡推進協議会全体研修会・吳羽ハイツ・43名)	11月 10 日
7	堀内大介主査学芸員	小竹貝塚発掘調査(ふるさと探訪同好会・富山市総合社会福祉センター・50名)	2月 10 日
8	小林高範主査学芸員	寺町周辺の縄文遺跡(寺町いきいき会公民館活動・寺町公民館・26名)	2月 19 日
9	細辻嘉門主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史(速星長寿会開校式・速星公民館・95名)	3月 18 日

(11)その他

①社会に学ぶ 14歳の挑戦

西部中学校 (4名) 平成 22 年 7 月 5 日～7 月 9 日

図書整理・発掘調査出土品整理・北代縄文広場管理運営・安田城跡歴史の広場管理運営・百塚遺跡発掘調査

②くれば里山ネット「史跡探訪ウォーク」 小黒智久主査学芸員

親子 (39名) 西金屋長尾塚古墳・センガリ山窯跡・白鳥城跡 平成 22 年 4 月 18 日

③富山県神道青年会「水無月一六会」教養研修会 古川知明所長 平成 22 年 6 月 16 日

会員 (12名) 日枝神社・富山城下町

④「悠久の森 2010 森と語ろう」 出展 (悠久の森実行委員会)

安達志津 (富山市日本海文化研究所研究員) 「縄文クッキーを食べてみよう」 参加者 220 名
富山市ファミリーパーク 平成 22 年 8 月 29 日

⑤兵庫県川西市「古代学友の会」史跡等見学 小黒智久主査学芸員

会員 (25名) 婦中埋蔵文化財収蔵庫・杉谷 4 号墳・勅使塚古墳・王塚古墳 平成 22 年 11 月 12 日

⑥古里地区老人クラブ「富山市内の遺跡と出土品」見学 野垣好史主任学芸員

会員 (20名) 民俗民芸村考古資料館 平成 22 年 12 月 10 日

(12)研修参加

①平成 22 年度全史協北信越地区協議会研修会参加 小松博幸主査学芸員 新潟県佐渡市 平成 22 年 7 月 15 日～7 月 16 日

②平成 22 年度埋蔵文化財担当者専門研修「古代・中近世瓦調査過程」参加 野垣好史主任学芸員 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 平成 22 年 9 月 1 日～9 月 7 日

③平成 22 年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会参加 小松博幸主査学芸員・鹿島昌也主査学芸員・堀内大介主査学芸員・細辻嘉門主査学芸員 富山県埋蔵文化財センター 平成 23 年 3 月 1 日

4 刊行物

(1)富山市埋蔵文化財調査報告 (ISSN 2186-0645)

- No. 41 富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書(2010, 12)
No. 42 富山市百塚住吉 D 遺跡発掘調査報告書(2011, 3)
No. 43 富山市館本郷 II 遺跡発掘調査報告書(2011, 3)
No. 44 富山市内遺跡発掘調査概要 V (2011, 3)

(2)PR 誌・展示図録等

- 富山市の遺跡物語 No. 12 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2011, 3)
特別展 岐阜市・富山市都市間交流事業「越中と美濃を結ぶ考古展 II」
『城と都市—遺跡から見る戦国と江戸—』 (2010, 7)
北代縄文通信 第 30 号 (2010, 8)
北代縄文通信 第 31 号 (2010, 11)
北代縄文通信 第 32 号 (2011, 3)

(21 年度補遺)

- 北代縄文通信 第 29 号 (2010, 3)

5 研究

(1)小研究会

1	小黒智久主査学芸員	富山市婦中町添の山古墳群について 会場：埋蔵文化財センター会議室	6 月 23 日
2	佐伯哲也氏 (北陸城郭研究会)	縄張り図の書き方及び城館の定義 会場：埋蔵文化財センター会議室	7 月 26 日
3	小林高太嘱託学芸員 蓮沼優介嘱託学芸員	富山藩主墓所長岡御廟所の調査成果 会場：埋蔵文化財センター会議室	10 月 13 日
4	小嶋芳孝氏 (金沢学院大学美術文化学部教授)	能登の衢（ちまた）と祭祀 会場：とやま市民交流館	12 月 11 日
5	高橋浩二氏 (富山大学人文学部准教授)	富山市杉谷 6 号墳の発掘調査成果 会場：埋蔵文化財センター会議室	12 月 20 日
6	加藤裕介氏 (株式会社太陽測地社)	民間発掘会社の整理作業におけるデジタル機器の使用について 会場：埋蔵文化財センター会議室	2 月 22 日

(2)論文・報告・紹介 (2010, 4~2011, 3)

富山市内の遺跡に関するものを含みます。

- 大川原竜一 2010, 12 「富山県出土の墨書土器・刻書土器」『古代学研究所紀要』第 14 号 明治大学古代学研究所
小黒智久 2010, 6 「倭における有機質製帽冠の系譜とその展開」『考古学研究』第 57 卷第 1 号 考古学研究会
鹿島昌也 2010, 12 「富山城下町出土のイルカ骨について」『大境』第 29 号 富山考古学会
小林高範 2011, 2 「大山地域の石製狛犬について」『大山の歴史と民俗』第 14 号 大山歴史民俗研究会
小林高範 2011, 3 「薬師岳に奉納された模造剣について」『富山市の遺跡物語』No. 12 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
坂口諒子 2011, 3 「北代縄文館展示室における有害生物生息調査」富山市の遺跡物語』No. 12 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
野垣好史 2010, 5 「2009 年の考古学界の動向 北陸 古墳時代」『考古学ジャーナル』No. 601 ニューサイエンス社
野垣好史 2011, 3 「白岩川流域の首長墓系譜」『富山市の遺跡物語』No. 12 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
長谷部真吾・中村晋也 2011, 3 「富山城跡出土の金装竹製品について」『富山市考古資料館報』No.48 富山市考古資料館
藤田富士夫 2010, 5 「縄文時代の意匠文土器にみる“数”的表現について—上山田・天神山式土器文化圏を中心として—」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』No.8 敬和学園大学
藤田富士夫 2010, 7 「考古学航海日誌（「あの頃の波は伝わるのが遅かった」…の巻）」『連絡紙 215』富山考古学会

- 藤田富士夫 2010, 10 「越中時代の大伴家持の歌とその環境」『第18回春日井シンポジウム2010年「万葉集」に歴史読む』春日井市・春日井市教育委員会・春日井シンポジウム実行委員会
- 藤田富士夫 2010, 12 「国指定史跡 桜谷一号・二号墳の墳形とその意義について」『考古学論究』第13号 立正大学考古学会
- 藤田富士夫 2010, 12 「国指定史跡 桜谷一号・二号墳の墳形とその意義について」『芙蓉峰の考古学 池上悟先生還暦記念論文集』 六一書房
- 藤田富士夫 2011, 1 「桜谷9号墳出土の内行花文鏡とその意義」『大境』第29号 富山考古学会
- 藤田富士夫 2011, 1 「座談会 富山考古学会設立60周年を振り返る(司会の項)」『大境』第29号 富山考古学会
- 藤田富士夫 2011, 3 「大伴家持の春巡行と立山の景」『万葉古代学研究所研究年報』第9号 万葉古代学研究所
- 古川知明 2010, 6 「富山県地方史研究の動向 考古学関係」『信濃』第62巻第6号 信濃史学会
- 古川知明 2010, 6 「富山市四方海底沖の江戸期石材について」『金大考古』第66号 金沢大学考古学研究室
- 古川知明 2010, 7 「前田家二〇〇年の城」『城と都市—遺跡から見る戦国と江戸—』 城と都市展実行委員会
- 古川知明 2010, 7 「富山城大手門石垣の位置を示す解説板」『富山史壇』第162号 越中史壇会
- 古川知明 2010, 8 「慶長期高岡城下町の復元—慶長期富山城下町との比較から—」『北陸都市史学会誌』第16号 北陸都市史学会
- 古川知明 2010, 8 「コラム 百塚築城断念と富山城の再建」『愛蔵版 ふるさと人物伝』 北国新聞社
- 古川知明 2011, 1 「富山城本丸石垣における鏡石について」『大境』第29号 富山考古学会
- 古川知明 2011, 2 「旧石器時代から縄文時代草創期における北陸への下呂石の搬入」『考古学ジャーナル』No. 610 ニューサイエンス社
- 古川知明 2011, 3 「常願寺川石工甚右衛門について」『富山史壇』第164号 越中史壇会
- 古川知明・蓮沼優介 2011, 3 「北畠山各願寺宝篋印塔の調査」『富山市考古資料館紀要』第30号 富山市考古資料館
- 古川知明・岡田保造 2011, 3 「富山市本宮立藏社境内公卿石にみる線刻符号」『富山市考古資料紀要』第30号 富山市考古資料館
- 古川知明・㈱パレオラボ AMS 年代測定グループ 2011, 3 「医王山東菴寺蔵柱材の調査」『富山市の遺跡物語』No. 12 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 細辻嘉門 2010, 5 「各都道府県の動向 16 富山県」『日本考古学年報』第61号(2008年度版) 日本考古学協会
- 鹿島昌也・望月精司 2010, 5 「北陸の古代土器生産と窯・工房・工人集落」『古代窯業の基礎研究』 真陽社
- 鹿島昌也・長谷部真吾・中村晋也 2011, 3 「富山市百塚遺跡出土ガラス玉の科学的研究」『金沢学院大学紀要』第9号 金沢学院大学
- 中本八穂 2011, 3 「富山城下町戸式部邸出土の擂鉢について」『富山市の遺跡物語』No. 12 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 河西健二 2010, 6 「竪穴住居、古墳、井戸状遺構—平成21年度の調査から—」『富山考古学研究』第13号 (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 久々忠義 2010, 6 「古代の五福」『富山考古学研究』第13号 (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 久々忠義 2010, 7 「富山城跡の中世石塔をめぐって」『北陸の中世城郭』第20号 北陸城郭研究会
- 坂井秀弥 2010, 8 「日本海を北上した古代の人びと」『日本海文化研究所公開講座平成21年度記録集』 日本海を行き交う人・モノ・文化 富山市日本海文化研究所
- 重杉俊樹 2010, 7 「まぼろしの富山古城「安住城」を探る」『北陸の中世城郭』第20号 北陸城郭研究会
- 西川修一 2010, 5 「古墳出現期の文物ネットワークについて—越中・能登と相模湾岸の比較—」『西相模考古』第19号 西相模考古学研究会
- 堀宗夫 2010, 7 「中世富山城の考察」『北陸の中世城郭』第20号 北陸城郭研究会
- 麻柄一志 2010, 4 「旧石器文化の編年と地域性 北陸地方」『講座日本の考古学1 旧石器時代(上)』 青木書店
- 麻柄一志 2010, 5 「都道府県別遺跡集成の解説と遺跡分布図 富山県」『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース—』 日本旧石器学会
- 麻柄一志 2010, 8 「日本海をめぐる旧石器時代の交流」『日本海文化研究所公開講座平成21年度記録集』 日本海を行き交う人・モノ・文化 富山市日本海文化研究所
- 町田賢一 2010, 6 「富山県における縄文遺跡のあり方—地形分類図から見た遺跡分布—」『富山考古学研究』第13号 (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 森喜美 2010, 7 「北陸地域の焼失住居跡について」『富山市日本海文化研究所報』第45号 富山市日本海文化研究所
- 山本正敏 2010, 5 「縄文石斧の生産と流通」『季刊考古学』第111号 雄山閣
- 町田尚美・三辻利一 2010, 6 「任海宮田遺跡出土須恵器追加試料の胎土分析結果について」『富山考古学研究』第13号 (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

(21年度補遺)

- 小黒智久 2010, 3 「富山市婦中町添の山古墳群の研究」『富山市の遺跡物語』No. 11 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 藤田富士夫 2010, 3 「日本列島出土成対玦飾組成的考察」『東南考古研究』第4輯 厦門大学出版社
- 細辻嘉門 2010, 3 「特集弥生時代前期・中期の遺跡 概説 遺跡概要 富山市の遺跡」『大境』第28号 富山考古学会
- 堀沢祐一 2009, 6 「越中国から見た人面墨書土器」『考古学と地域文化』 一山典還暦記念論集刊行会
- 堀沢祐一 2009, 8 「日本海沿岸の古代祭祀—古代越中国を中心として—」『祭りと信仰からみた日本海文化Ⅱ』 富山市日本海文化研究所
- 堀沢祐一 2009, 12 「律令期祭祀遺跡の立地～古代越中国を中心として～」『富山史壇』第160号 越中史壇会
- 堀沢祐一 2010, 3 「北陸と東海の古代まじないの世界」『越中と美濃を結ぶ考古展 記念講演録』 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

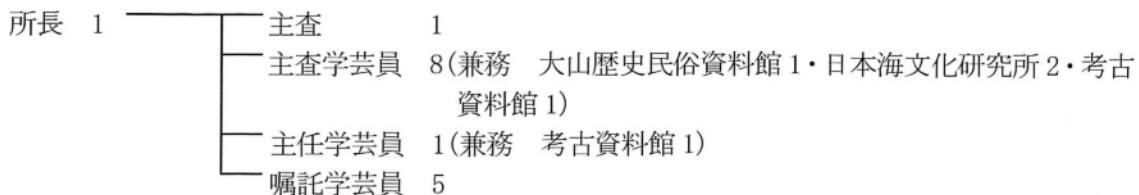
(3) 講演・研究発表

富山市内の遺跡に関連するものを含みます。

- 小黒智久 富山大学国語教育学会研究発表会 講演「富山市をはじめとする考古学の最新の話題」 平成22年11月13日 富山大学人間発達科学部
- 中井英策 平成23年度富山考古学会総会 発掘調査報告「平成22年度 百塚遺跡の調査」 平成23年1月30日 富山市民プラザ
- 藤田富士夫 トンボ塾連続講座 講演「倭の国々 弥生時代の日本列島—邪馬台国時代の婦負王国を探る—」 平成22年6月19日 渋谷区立勤労福祉会館
- 藤田富士夫 富山市日本海文化研究所公開講座—日本海を行き交う人・モノ・文化—2月講座「いま、明らかになる小竹貝塚—日本海側最大級の貝塚に迫る！—」 報告「日本海側最大の貝塚発見のころ」 平成23年2月22日 とやま市民交流館学習室
- 古川知明 日本海域水中考古学会 報告「富山市四方沖海底の江戸期石材について」 平成22年5月22日 富山県埋蔵文化財センター
- 古川知明 富山大学教養講座とやま学—近世富山の史料— 講義「富山城下町の発掘調査」 平成22年6月28日 富山大学人間発達科学部
- 古川知明 北陸都市史学会2010年福井大会 報告「富山・高岡の城と城下町—慶長期を中心に—」 平成22年8月1日 福井大学教育地域学部
- 古川知明 南砺市民大学講座高齢者大学 講演「富山城と高岡城—発掘調査から見た前田利長の城—」 平成22年9月1日 南砺市福野文化創造センターへリオス
- 堀内大介 富山市日本海文化研究所公開講座—日本海を行き交う人・モノ・文化—2月講座「いま、明らかになる小竹貝塚—日本海側最大級の貝塚に迫る！—」 報告「よみがえる小竹貝塚の縄文人—出土人骨の科学分析から—」 平成23年2月22日 とやま市民交流館学習室
- 町田賛一 富山市日本海文化研究所公開講座—日本海を行き交う人・モノ・文化—2月講座「いま、明らかになる小竹貝塚—日本海側最大級の貝塚に迫る！—」 報告「小竹貝塚の最新発掘調査成果について」 平成23年2月22日 とやま市民交流館学習室

6 組織・事業費

(1)組織



(2)事業費

埋蔵文化財調査費	137,007千円
一般管理・体制整備費	78,635千円
普及活動費	1,398千円
史跡・遺跡保護管理費	20,933千円

研究余話 I 白岩川流域の首長墓系譜

野 垣 好 史 (埋蔵文化財センター主任学芸員)

はじめに

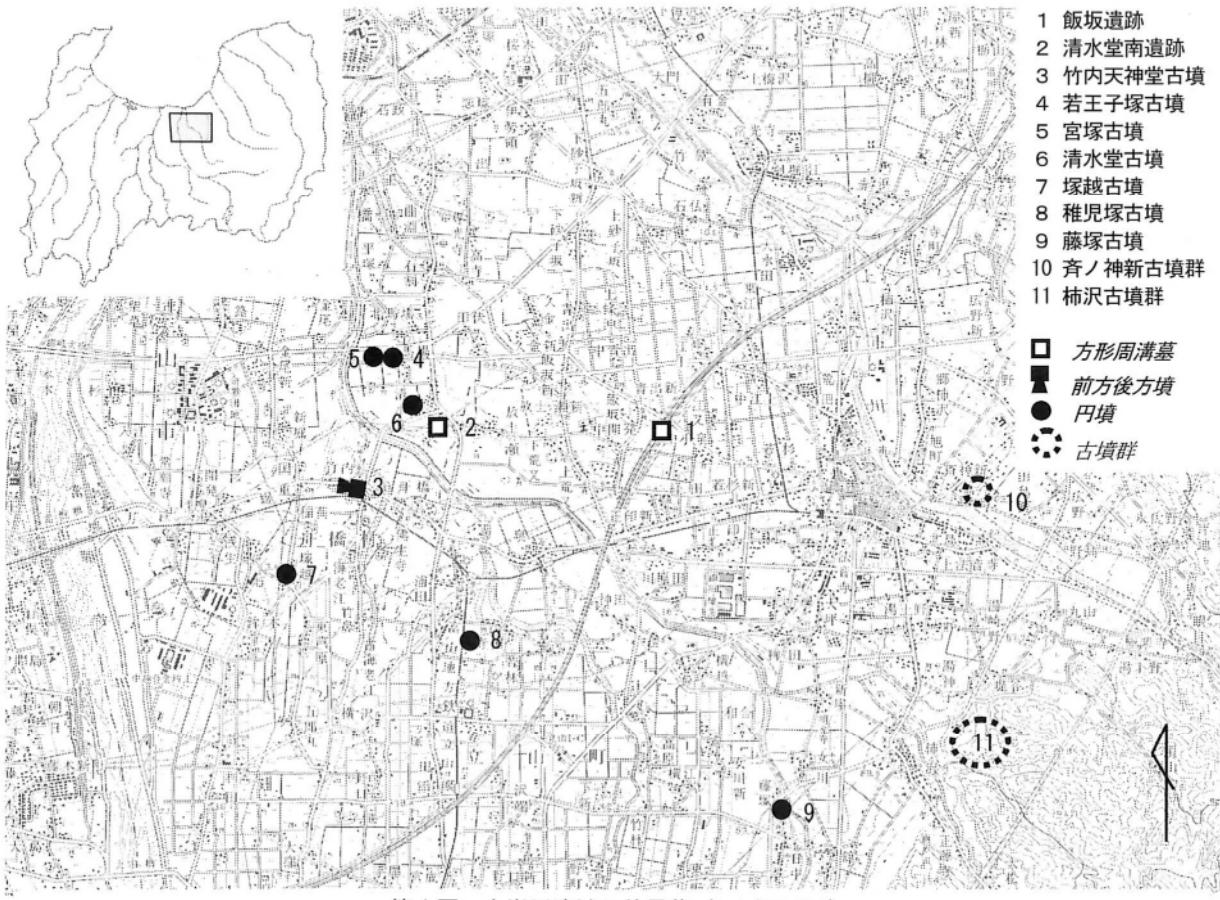
越中の古墳分布は、氷見・高岡地域など西部に圧倒的に多く、東部は少ない。こうしたなか東部で有力な首長墓が築かれる白岩川流域は稀有な地域である。ただ、古墳時代を通して安定した系譜があるのではなく、他地域同様に盛衰がある。ここでは白岩川流域の首長墓系譜が営まれた背景や他地域との関係について、古墳規模が相対的に大きくなる中期を中心に簡潔に見通しを述べたい。

1 白岩川流域の首長墓

最初に白岩川流域の首長墓について、先行研究を参考しながら確認しておく。

弥生後期から終末期に飯坂遺跡や清水堂南遺跡で方形周溝墓が築かれる。古墳時代前夜すでにこの地域に一定の勢力が存在したことを示す。飯坂遺跡の北東約500mにある江上A遺跡では、掘立柱建物や環状溝を巡らす住居、柵、橋、水路等の遺構のほか、農耕具等の多量の木製品が出土した。江上A遺跡に近い中小泉遺跡では灌漑用水路内で水位流路調整のためのシガラミが発掘されている。両集落の墓域として、飯坂遺跡の方形周溝墓群が考えられる(上市町教育委員会 1981)。清水堂南遺跡も墓域の東側に土器や玉類を出土する溝等が検出されており、隣接して居住域が想定される(富山市教育委員会 2000)。これら集落は方形周溝墓を築く基盤であろう。

竹内天神堂古墳は、確定的ではないが前期の前方後方墳とみられている(池野 1984・岸本 1992など)。小黒智久氏が指摘する4期(前方後円墳集成編年(広瀬 1991)による。以下同。)の築造ならば、後続する中期の円墳群の嚆矢となる首長墓といえるが、より古くなる可能性もある。越中では柳田布尾山古墳を別格として除けば、確実に4期に下る前方後方墳は確認できない⁽¹⁾。羽根丘陵の



第1図 白岩川流域の首長墓 (S=1/75,000)

勅使塚古墳、王塚古墳は論者によって見解が異なるが、いずれも4期には下らないようであるし、氷見地域の桜谷1号墳は3期とみられている^④。射水地域の五分一古墳も低平な前方部から古い段階に位置付けられるという（高橋2007）。隣の能登でも雨の宮1号墳以外に4期の前方後方墳はみられないようである。こうした状況から竹内天神堂古墳が4期より古くなることも考えられる。

中期は大型円墳が継続的に築かれたとみられる。稚児塚古墳（46m）、若王子塚古墳（46m）をはじめ、清水堂古墳（30m）、塚越古墳（33m）、藤塚古墳（20m）などがある。若王子塚古墳に隣り合う宮塚古墳（25m以上）も現墳丘は方形だが、元は円墳だった可能性が有力視されている（高橋2006a）。このなかで副葬品が判明している藤塚古墳は、鉄劍・鉄槍・方格規矩鏡を有し、小黒氏はその内容と須恵器がないことから中期前半の築造を推定する（小黒2005）。その他は時期の判断が難しいが、他地域の状況からすると從来指摘されるとおり中期と考えるのが穩当であろう。

越中で最大規模の円墳が築かれ、前期とは変わって越中を代表する地域となる。なお、これらの円墳をすべて中期とし、なおかつすべてを時期差でとらえた場合、一系列の古墳にしては数が多いように思われる。若王子塚古墳、稚児塚古墳などを筆頭として、その下に20～30m級の円墳が従属する場合があったとするのが考えやすいのではないか。

このほか注目すべき古墳として、前期説と後期説がある柿沢古墳群や、7世紀前葉から中頃とされる斎ノ神新古墳群がある（藤田2005）。柿沢古墳群が前期か後期かで見方が異なるが、現状で定見を持たないのでここでは触れないでおく。

2 首長墓が築かれた背景

古墳がある場所に立地する背景には、水稻農業等の生産基盤の安定性、交通の要衝に位置するという立地環境、政治的な要因等が複雑に絡む。そのなかで白岩川流域になぜ弥生後期から墳墓・古墳が築かれ続けたのであろうか。

呉羽丘陵の東に広がる富山平野は県内で最も広い面積を有し、神通川、常願寺川といった大河川が形成する扇状地や平野が発達する。なかでも白岩川流域を含む常願寺川水系が顕著である。一方、遺跡の形成からもここが生活域として適していたことがうかがえる。武田健次郎氏が、富山平野における弥生時代・古墳時代・古代の遺跡の展開を分析したところによると（武田1998）、弥生時代に最も遺跡が集中するのは、白岩川流域を含む常願寺川右岸の扇状地扇端部であることがわかる。また、それら遺跡の多くが古代まで継続し、安定した生産基盤があったとされる。弥生時代に複数の遺跡が所在する複雑化した社会が想定され、もともと飯坂遺跡や清水堂南遺跡の方形周溝墓のような上位階層の墳墓が出現する素地があったといえる。

これに対して越中東部で同じく弥生時代後期以降の墳墓が築かれる羽根丘陵はどうか。大野英子氏は、可耕地と灌漑水源など水稻農業に適した土地があったことを条件の一つとしてあげるとともに、水路・陸路による交通の利便性、高地性集落に適した急峻な丘陵の存在を重視している（大野2007）。羽根丘陵は交通面、地理的環境面で他より適していたことが台頭の契機となった可能性が高く、外来の墓制である四隅突出型墳丘墓がこの地に存在することを物語る。

白岩川流域をはじめ常願寺川水系は、もともと社会が安定的に営まれるだけの生産基盤が存在し、それを背景に弥生時代後期以降の首長墓の系譜が成立したと考える。しかし、古墳時代前期に羽根丘陵と比べて劣位にあったのは、交通面や地理的環境面の要請に応えられた羽根丘陵が有利な位置にあったからであろう。そして前期とは一転して、ここが中期に越中を代表する地域になることは政治的な影響、おそらくは畿内政権との関係に変化が生じたためと考えられる。次では他地域との関係から白岩川流域の様相を検討したい。

3 他地域との関係

越中の他の地域と比較するとき、前期における白岩川流域は羽根丘陵や氷見地域ほど有力ではない。柿沢古墳群が前期に位置づけられるならば勢力図に再考を要するが、首長墓の規模からみて相対的に劣位に置かれることに変わりはないだろう。

中期は越中最大規模の円墳が築かれて、有力勢力に躍り出る。その出現の仕方は、前期古墳の在

り方にもよるが、空白地に突如出現したものではなく、弥生時代以来の首長墓が一部存在する場所に規模を拡大して出現するとみるべきだろう。では、なぜ中期に至ってこうした有力な系譜となつたのか。

中期における円墳や帆立貝形古墳の増加については、かつて小野山節氏が前方後円墳の築造が規制を受けたことによると指摘した。畿内の 大王墓が大きくなる時期に各地の古墳に規制がみられる とし、大王権力と各地の首長墓との関連を示したものである（小野山 1970）。その後、小野山氏の見解を都出比呂志氏が批判的に継承し、前方後円墳が規制を受けて一律に帆立貝形古墳や円墳になつたのではなく、大王権力の政治変動に連動して各地の首長系譜に再編現象が起き、古墳の築造状況に変化が生じたとする（都出 1988・1999）。つまり、畿内政権の政治変動により、旧の畿内大王勢力と関係を有していた地域勢力は衰退し、逆に新しい畿内大王勢力に近い地域勢力が台頭するという現象が生じることを明らかにしたのである。

前期後半から中期にかけて、大王墓が奈良盆地北部から河内・和泉の古市・百舌鳥古墳群に移動する。畿内政権のこうした政治変動により畿内と越中の首長との関係も更新され、新しくてこ入れを受けた白岩川流域の首長が台頭したとみたい。須恵器の流通状況を検討した小黒氏によると、常願寺川・白岩川中流域の集落から TK216 または TK208～TK47 型式期の須恵器が出土し、陶邑窯産を含むという（小黒 2003）。白岩川流域の被葬者が、陶邑窯を傘下に抱える河内・和泉の政権との関係によって入手したとも考えられる。

では次に越中の他地域との関係に注目したい。白岩川流域と同等規模の円墳や帆立貝形古墳が氷見地域にもみられる。中期の可能性が考えられている主要なものを挙げると、稻積才オヤチ A1 号墳（帆立貝形古墳 46.5m）、上田 1 号墳（円墳 44m）、泉 1 号墳（円墳 43m）、泉 17 号墳（円墳 35 m）、朝日寺山 1 号墳（円墳 38～40m）などがある。このほか規模は小さいが、イヨダノヤマ 3 号墳（円墳 20.5m）、加納南 9 号墳（円墳 19m）はそれぞれ横剥板鉢留短甲、挂甲が出土している。氷見地域では前期から後期まで大規模な首長墓が築かれ、その背景には海や潟湖が重要な役割を果たしたと考えられている（藤田 1983・高橋 2007）。

注意されるのは、円墳で最大規模の上田 1 号墳や泉 1 号墳の規模が、白岩川流域の若王子塚古墳（46m）や稚児塚古墳（46m）に近いことである。誤差を考えればほぼ同じといってよいかもしれない。また、両地域に同規模の円墳が 2 基ずつ築かれていることも注意されるところである。それぞれの地域で自律的に規模が決められたというより、外的な要因によってこうした現象が生じたとする方が考えやすい。とはいって、稚児塚古墳は段築・葺石が伴うのに対し、氷見地域の円墳には伴わないので墳丘総体としてみると違いがあるという指摘があるかもしれない。しかし、平野に位置して川が近い稚児塚古墳と丘陵上にある氷見地域の古墳では葺石石材の獲得のしやすさが異なるし、段築も盛土の質による崩落のしやすさという墳丘構築上の違いに起因していることも想定できる。したがって、そうした違いを強調するよりも、上述したように 45m 前後を規範とするような古墳が東西に立地しているという現象を重視したいと思う⁽³⁾。

中期の越中は、氷見地域と白岩川流域の勢力が最有力であったとみられる。柳田布尾山古墳が他を圧倒する規模で築造された時代から、越中の東西に二勢力が並ぶ時代へ転換する。「大首長墳を頂点とする連合体制が、地域単位に分断されていく形をとて、畿内政権による地域支配が拡充していった」（高橋 2007）のであろう。しかし、中期後半頃からは氷見地域がより重視されたと推測される。イヨダノヤマ 3 号墳、加納南 9 号墳など 20m 前後の円墳から短甲、挂甲が出土しているのは、畿内政権がより小さい古墳の被葬者までを取り込むため積極的な関与に乗り出したことを意味している。このとき白岩川流域勢力は相対的にその位置付けは低く置かれたと考えられる。

おわりに

河内・和泉を中心とする中期の畿内政権が、元々安定した生産基盤があった白岩川流域の勢力を後押しすることで大規模円墳を築く首長が台頭し、一定期間氷見地域の勢力と同等の勢力を誇るも、中期後半以降、徐々に氷見地域が重視されるなかで相対的にその位置づけは低くおさえられたという筋書きを示した。

越中の中期と目されている円墳の多くは発掘調査がなされていないため、時期は古墳そのものからではなく周辺の状況から類推されており、不確定な所もあると思う。紙幅の関係から図をほとんど掲載せず、説明を省略した所もあるが、大筋で以上のように考えている。今後別に補いたい。

注

(1) 趣旨から外れるが、柳田布尾山古墳については次のように考えている。

高橋浩二氏は、柳田布尾山古墳が能登の雨の宮1号墳との直接的な関係によって成立したとし、雨の宮1号墳に近い時期を想定している（高橋 2006b・2007）。伊藤雅文氏は雨の宮1号墳を4期とし、さらに伊藤氏は「前方後円墳にかわる最後の前方後方墳」、「埋葬施設や副葬品に畿内王権との密接な結びつきを示しながら、墳形は伝統的な首長墳としての前方後方墳を採用していることが重要」とする（伊藤 2006）。雨の宮1号墳との関係が深い柳田布尾山古墳も同様の性格を推測でき、畿内との関係が想定される有力前方後方墳として特別視されることから、他の前方後方墳とは明確に区別される。

(2) 桜谷1号墳については、最近、藤田富士夫氏が前方後円墳で2期に遡るという見解を示している（藤田 2010）。

(3) 帆立貝形の稲積オオヤチA1号墳も46.5mという規模であるが、これは前方部を含めた全長であり、後円部径だけでは約36mである。そのため上述の円墳と同じ基準では扱えないが、円墳の径とほぼ同規模であることに何らかの意図があるように読み取るのは穿ちすぎであろうか。

引用・参考文献

- 池野正男 1984 「竹内天神堂古墳」『昭和58年度富山県埋蔵文化財調査一覧』富山県教育委員会
伊藤雅文 2006 「能登における古墳築造の展開と問題点」平成17年度富山大学人文学部公開研究会『北陸の古墳編年の再検討』富山大学人文学部考古学研究室
大野英子 2007 『王塚・千坊山遺跡群—富山平野の弥生墳丘墓と古墳群—』 同成社
小黒智久 2003 「越中東部地域における初期須恵器」『富山市考古資料館報』No.40 富山市考古資料館
小黒智久 2005 「古墳時代後期の越中における地域勢力の動向」『大境』第25号 富山考古学会
小黒智久 2006 「越中における古墳編年」平成17年度富山大学人文学部公開研究会『北陸の古墳編年の再検討』富山大学人文学部考古学研究室
小黒智久 2007 「勅使塚古墳と王塚古墳」『大境』第27号 富山考古学会
小野山節 1970 「五世紀における古墳の規制」『考古学研究』第16卷第3号 考古学研究会
上市町教育委員会 1918 『北陸自動車道遺跡調査報告—上市町遺構編一』
岸本雅敏 1992 「越中」『前方後円墳集成』中部編 山川出版社
高橋浩二 2006a 「富山市宮塚古墳の測量調査成果」『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書II』富山市教育委員会
高橋浩二 2006b 「北陸の前方後方墳—柳田布尾山古墳の時期的評価をめぐって—」『石川考古学研究会誌』第49号 石川考古学研究会
高橋浩二 2007 『富山の古墳—氷見・雨晴の首長と日本海—』 富山県・日本海学推進機構
武田健次郎 1998 「富山平野における遺跡群の展開」『富山考古学研究』創刊号 勤富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
都出比呂志 1988 「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』第22号 大阪大学文学部
都出比呂志 1999 「首長系譜変動パターン論序説」『古墳時代首長系譜変動パターンの比較研究』大阪大学文学部
富山市教育委員会 2000 『清水堂南遺跡』
広瀬和雄 1991 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版社
藤田富士夫 1983 『日本の古代遺跡13 富山』 保育社
藤田富士夫 2005 「上市町の先史」『新上市町誌』 上市町
藤田富士夫 2010 「国指定史跡桜谷1号・2号墳の墳形とその意義について」『芙蓉峰の考古学—池上悟先生還暦記念論文集—』 六一書房

研究余話Ⅱ 北代縄文館展示室における有害生物生息調査

坂 口 諒 子 (埋蔵文化財センター嘱託学芸員)

はじめに

北代縄文館展示室は、縄文時代中期後葉を中心に行なわれた史跡北代遺跡に隣接して位置している。室内には、北代遺跡の出土品や第13号竪穴住居を復元した実物大のジオラマなどが展示されており、施設周辺には昆虫の生息環境に適する樹木類などが広がっている(写真1)。

今回、室内に展示されているジオラマの柱に虫孔や虫粉が確認されたため、ジオラマ及び室内に捕虫器を設置し、回収後に捕獲数のカウント、種の同定作業を行った。また、調査を実施するにあたって、ボランティアの方々や管理・運営を担当した職員に対し聞き取り調査も行い、昆虫の侵入状況や北代縄文館の現状を把握する調査を実施した。

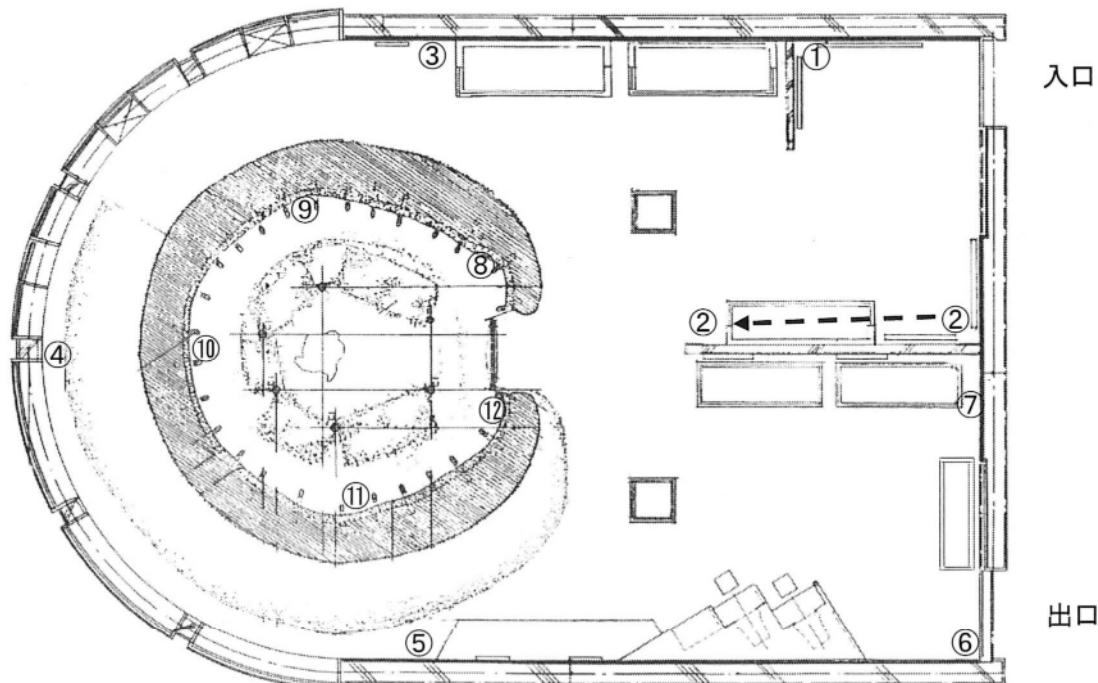
1 調査方法

使用した捕虫器は、LCインジケータ(イカリ消毒株式会社製)12個である。捕獲された昆虫は実体顕微鏡を用い、10~63倍の倍率で観察し、1匹ずつ写真撮影を行い、有害生物防除事典などを参考に同定作業を行った。

また、調査期間は、2010年7月21日(水)~8月3日(火)の14日間とし、館内及びジオラマ内に12箇所壁に沿って捕虫器を設置した(第1図:以下、設置箇所番号で結果を述べる)。



写真1 北代縄文館展示室の外観



第1図 捕虫器の設置箇所

2 調査結果

今回確認した生物（昆虫以外も確認されたため、総称して以下生物）は、アリ、カ、ガ、寄生バチ、クモ、コガネムシ、ゴキブリ、小バエ、ゴミムシ、ダニ、ダンゴムシ、チャタテムシ、ハサミムシ、ハネカクシ、ヒメマルカツオブシムシ、マダラスズ、ヤモリ、幼虫、不明を含む19種であり、合計119匹であった（第1表）。ダンゴムシの捕獲数が29匹と最も多く、次いで小バエが25匹と多かった。今回捕獲した生物の内、文化財に直接的な被害を与える害虫として挙げられるのは、ゴキブリ、チャタテムシ、ヒメマルカツオブシムシの3種であった。

最も多くの生物が確認できた場所は④であり、ここは展示室の入口から遠く離れている場所であるにも関わらず、小バエなどが多く飛来迷入していた。

第1表 設置箇所ごとの捕獲数

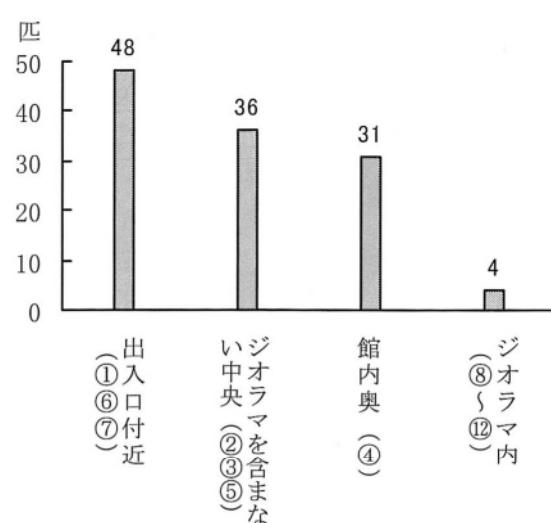
生物名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	合計
アリ					4								4
カ				1									1
ガ				1									1
寄生バチ			1										1
クモ	3	2	5	2	5	1	1						19
コガネムシ	1												1
ゴキブリ					2								2
小バエ	3	3	13	1	3	2							25
ゴミムシ							1						1
ダニ			1	1							2		4
ダンゴムシ	2	2	7	2	4	5	7						29
チャタテムシ		3	3	1				1					8
ハサミムシ	1	1	1	2	2	1							8
ハネカクシ						1							1
ヒメマルカツオブシムシ	2	1	4		1	1							9
マダラスズ						1	1						2
ヤモリ						1							1
幼虫						1							1
不明						1							1
合計	9	5	19	31	12	25	14	2	0	0	2	0	119

次いで多いのは⑥であった。⑥は日頃扉が開放されていない出入口付近の場所で、昆虫以外のヤモリなどの生物も確認できた。

一方、①・②は日常的に扉が開放されている場所付近で、⑥と比べると生物の捕獲数は比較的少なかったが、②は当初の設置場所から移動していくため、捕獲したとする数値は若干不正確な部分を含む結果となった（第1図）。

また、虫孔や虫粉を確認したジオラマ内⑨・⑩・⑫は0匹、⑧・⑪は2匹という結果であったが、これは捕虫器の設置場所が不十分であったため、木材を穿孔加害するキクイムシやカミキリムシなどの害虫を捕獲するには至らなかった。

また、室内を大きく4区分した場合、最も多く生物を捕獲した場所は出入口付近であった（第2図）。



3 考察

北代縄文館展示室は、オープン当初にキクイムシの被害がジオラマの柱にみられ、燻蒸作業が行われたが、再び柱に虫孔や虫粉などがみられるようになったため、今回、北代縄文館展示室で有害生物生息調査を実施した。その結果、木材を加害する害虫は確認できなかったが、文化財に直接的な被害を及ぼすゴキブリ・チャタテムシ・ヒメマルカツオブシムシの3種を確認した。

ゴキブリは、書籍の糊や背表紙、動植物質などを食害し、糞によって資料も汚染する。また、木材を加害する場合もあるが、穿孔食害をしないため、今回ジオラマにみられた被害はゴキブリによるものである可能性は低いと考えられる（写真2）。



写真2 ゴキブリ
(0.8倍)

チャタテムシは比較的被害は軽いものの、書籍の糊や乾燥標本などに発生したカビや動植物標本を食害する。また、湿度が高い生息環境（約24~30°C、75~90%RH）を好み、1箇所に多量に発生した場合、その場所は高湿環境であるといえるため、湿度を約60%RH以下に抑える必要がある。しかし、今回は1箇所に多量に発生しておらず、高湿環境である可能性は低いと考えられる（写真3）。

ヒメマルカツオブシムシの幼虫は、羽毛などの動植物質を主に食害し、特に汗や食品などで汚染された箇所はひどく加害される（写真4）。

その他捕獲した生物は、文化財に直接的な被害は与えないが、その死骸が施設に残ることで、死骸（動物質）を食するカツオブシムシ類やシバンムシ類などの生物を誘引するなど、2次被害を及ぼす可能性がある。

今回生物が侵入した原因として、室内の電球の光り（紫外線）が挙げられる。これは、入口の扉は開館中開け放たれたままであるため、電球の光り（紫外線）が外に漏れ、それに誘引されて飛翔昆虫が飛来、隙間や入口などの開口部から歩行虫が侵入したと考えられる。また、外敵が少なく過ごしやすい環境であることも原因の一つであると考えられる。

聞き取り調査によると、室内の冷房は24~27°Cに設定されており、これは、生物の行動が活発になる温度環境であるといえる（第2・3表）。しかし、湿度については今回計測していないため、生物が好む湿度環境であったとは言い難い。

これら生物の侵入を防ぐには、室内の清掃は毎朝行われ、行き届いていると考えられるものの、進入経路となる開口部付近、及び人目に付きにくい物陰などの清掃の徹底、温湿度の管理が肝要で



写真3 チャタテムシ
(0.8倍)

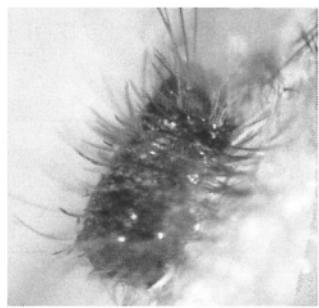


写真4 ヒメマルカツオブシムシ
(0.8倍)

第2表 博物館内での温度と害虫による食害量の関係

（『博物館の害虫防除ハンドブック』より引用）

温度	食害量
10°C以下	少ない
15°C以上に上昇	多くなる
20°C以上に上昇	顕著に増す
25~35°C	非常に多い
35°C以上	少なくなる

第3表 博物館内での湿度と害虫による食害量の関係

（『博物館の害虫防除ハンドブック』より引用）

湿度	食害量
10%RH以下	少ない
30%RH	顕著に増す
50~70%RH	非常に多い
90%RH以上	少なくなる

ある。また、温湿度を一定に保ち、電球の光り（紫外線）の漏れや生物の侵入を防ぐには、出入口扉を開館中は閉めるべきであり、入り口部分に粘着シートを敷くことも有効である（写真5）。

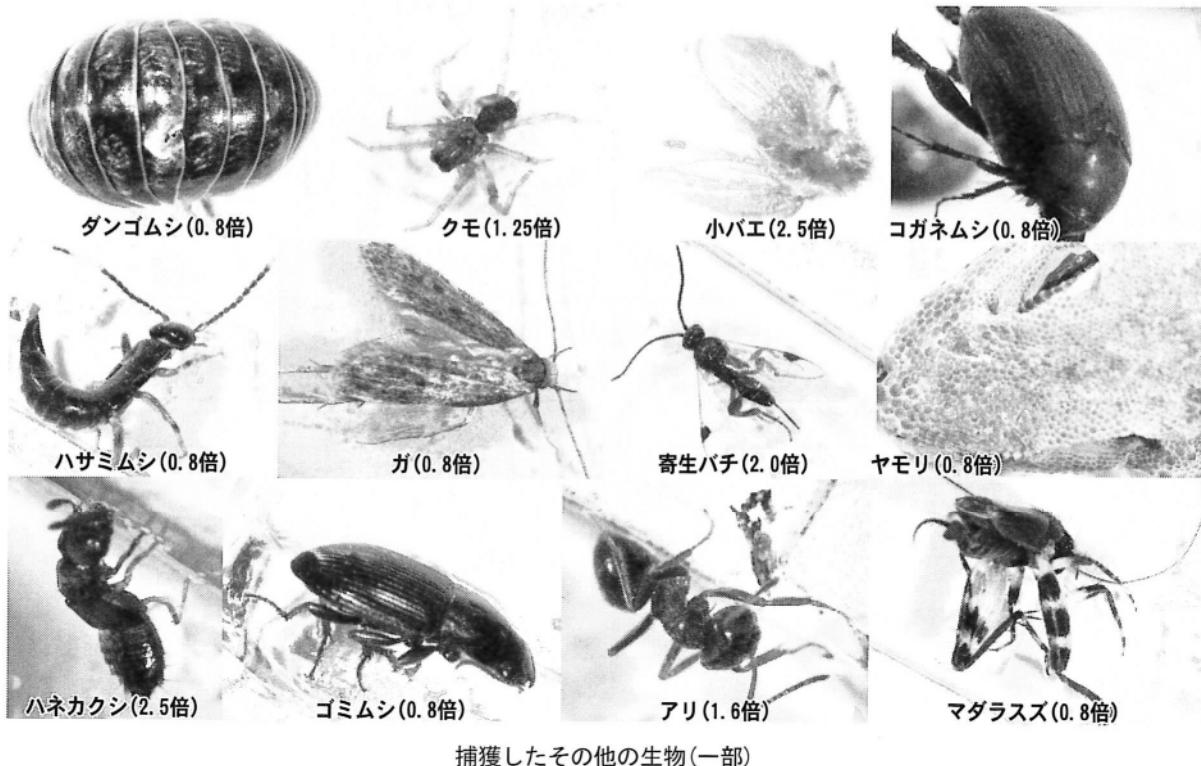
さらに、扉の下の隙間はゴムパッキンなどで塞げれば、生物の侵入を遮断できると考えられる。ほかにも、窓ガラスに紫外線カットのフィルムを貼ることや、紫外線カットの電球を用いることも侵入を防ぐことに繋がる。



写真5 開け放たれた入口扉

おわりに

今回、北代縄文館展示室で調査を実施したが、ジオラマの柱に直接的な被害を与える生物は確認できなかった。これは、捕虫器の設置場所が不十分であったためと考えられ、今後設置場所の再検討が必要である。また、3種の文化財害虫や他の生物が確認されたことから、館独自の防虫・虫害対策を講ずるために、捕獲した生物についてのデータを蓄積し、今回計測しなかった温湿度も併せ、継続した調査が望まれる。



捕獲したその他の生物(一部)

引用・参考文献

- 杉山真紀子 2001 『博物館の害虫防除ハンドブック』 雄山閣
- 田中和夫 1998 「屋内害虫の同定法（1）昆虫類の目の検索表」『家屋害虫』第20卷第2号 日本家屋害虫学会
- 田中和夫 2000 「屋内害虫の同定法（2）双翅目の科の検索表」『家屋害虫』第22卷第2号 日本家屋害虫学会
- 富岡康浩・池尻幸雄・白井英男・良浪 誠 2007 『写真で見る 有害生物防除事典』 オーム社
- 富山市教育委員会 1993 『史跡北代遺跡ふるさと歴史の広場整備事業報告書』
- 古川法子・吉村 剛・今村祐嗣 2009 「ヒラタキクイムシ類による家屋被害調査－加害種および発生地域の特定－」『木材保存』第35卷第6号 (社)日本木材保存協会

研究余話Ⅲ 薬師岳に奉納された模造剣について

小林高範（埋蔵文化財センター主査学芸員）

はじめに

富山市南東部に位置する薬師岳（第1図）は標高2,926m、夏場は多くの登山者で賑わう人気の山岳地である。山麓の有峰村（大正10年ダム建設のため解村）の人々にとって、薬師岳は古くから信仰の対象であり、毎年旧暦6月5日に15歳から50歳までの男子が総出で頂上の祠に参詣した。

承応三年（1654）の祈願文によると、願い事のある者は3年に一度剣を奉納したことが記されている。昭和30年代まで山頂の祠前には奉納された鉄製の模造剣がうず高く積み上げられ、錆びた小山のようになっていたが、その後は登頂記念として大半が持ち去られている（深田1964・広瀬1976など）。多くの模造剣が奉納されたのは薬師岳信仰の一つの特色であり、今回は研究の一助となるよう模造剣の類例を幾つか紹介したい。

1 これまでの模造剣についての報告など

薬師岳の奉納模造剣については、広瀬誠氏の論考（広瀬1976）などから、四・五寸大、七・八寸大、一尺以上と大小あり、分厚いもの・薄いものなど様々な種類のものがあったとみられる。

形態の分かる事例としては、戦前に薬師岳へ登った加藤泰三氏が持ち帰った3点の模造剣のうち2種を版画による挿絵で紹介している（加藤1956 第2図）。

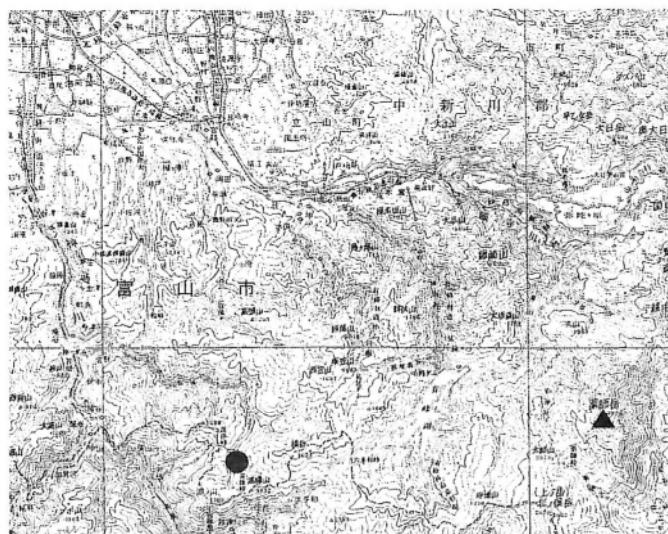
近年では、県内の山岳地を数多く巡っている佐伯哲也氏が、薬師岳山頂でこれまで採集した雁股鎌、火打鎌、釘、陶磁器などと共に模造剣について報告している（佐伯2005）。また、富山市教育委員会埋蔵文化財センターが平成22年秋に行った薬師岳山頂周辺の分布調査でも6点の模造剣の破片を採集している（本書 調査概要報告10）。

2 大山歴史民俗資料館所蔵の鉄製奉納模造剣について（表・第3図・写真）

大山歴史民俗資料館には薬師岳資料3点、そのほか関連するものとして旧大山町長棟村（第1図、現在は廃村）弁天社に奉納された資料3点の計6点があり、実測・拓本等の資料化を行った。

①薬師岳資料（1～3）

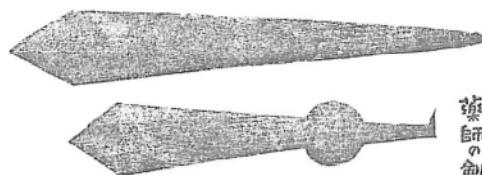
薬師岳山頂祠への有峰村民による祈願奉納品とされている。ただし、資料の旧所有者や資料館への来歴など詳細は不明である。1は細身の中型品で、柄の端部に表裏から孔が2ヶ所あけられ、上部に「ヨヤ」の刻字がみられる。2は厚みのある細身中型品で、丸く曲げられた柄の表面にはタガネによるパンチングがなされ、細身剣身上部に「会長 和澤清吉」の刻字がみられる。3は長さ70cmを越え



第1図 位置図 (S=1/200,000) ▲は薬師岳、●は旧長棟村

No.	長さ	幅	厚さ	重さ
1	45.2	4.5	2.5	240
2	48.2	7.9	9.0	730
3	73.8以上	12.6	2.5	680
4	31.7	6.3	2.0	120
5	37.0	8.1	2.5	210
6	33.6以上	8.1	2.0	160

表 法量（長さ・幅cm、厚さmm、重さg）



第2図 挿絵の模造剣（加藤1956より）

る細身の大型品で、柄は欠損している。

②旧長棟村資料（4～6）

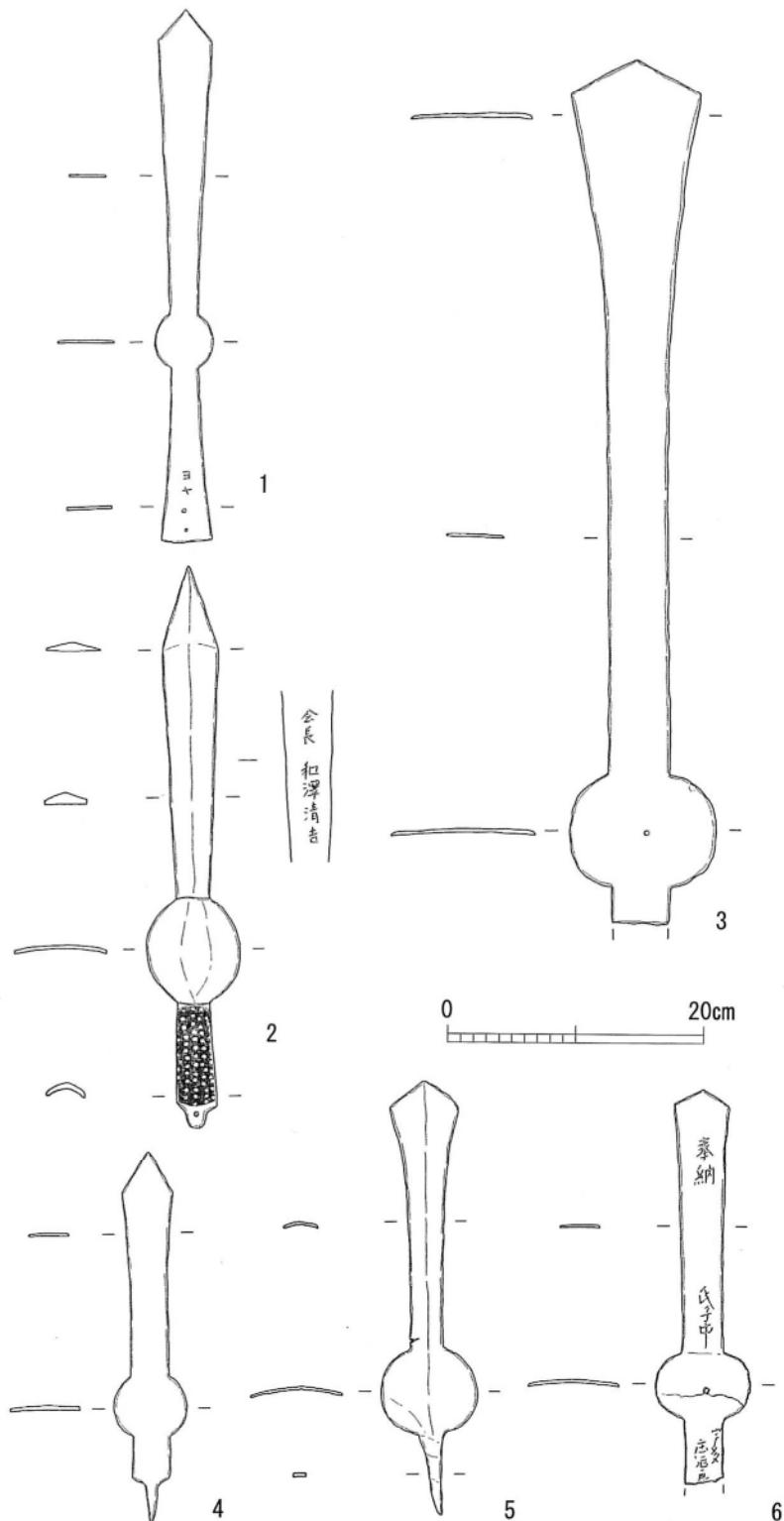
天明八年（1788）・文化六年（1809）・天保十二年（1841）など江戸後期の棟札5枚と共に平成元年11月、資料館に収蔵された資料である。4は幅広の小型品で、やや反った状態である。5は細身の小型品で、裏側中央に筋を入れ、への字状に折り曲げている。6は幅広の小型品で、柄は欠損している。剣身の上部に「奉納」、下部に「氏子中」、柄に「口多カ 庄治良カ」の刻字がみられる。

3 若干の考察

作りの点からみると、資料の大半は厚さ2mm程度の薄い鉄板を打ち抜いたような模造剣である。2だけは厚みがあり、剣身の断面が三角形に近い状態で、刻字からみて明治以降の比較的新しい時期の製作品とみられる。形態としては、1は柄が長く、4と5は差し込み部が細長く伸びるなど一様ではない。また剣身も幅広と細身のものがあり、構成要素を組み合わせて類型化できそうである。時期としては、有峰村下方家に所蔵されていた承応三年の祈願文から、江戸初期には既に信仰奉納品として模造剣を製作していたことが明らかであ

り、江戸時代を主体として明治末期頃までに製作され、奉納されたものと考えられる。

薬師岳以外の周辺山岳地でこのような模造剣が見つかった例としては、大汝山山頂（広瀬1976）、淨土山山頂（宮田2009）、芦嶋寺室堂遺跡（酒井2009）などがあるが、いずれも1点、あるいは数点という程度である。山のように積まれた薬師岳の奉納例はかなり独自性が強いものと感じられる。



第3図 奉納模造剣実測図 (S=1/6)

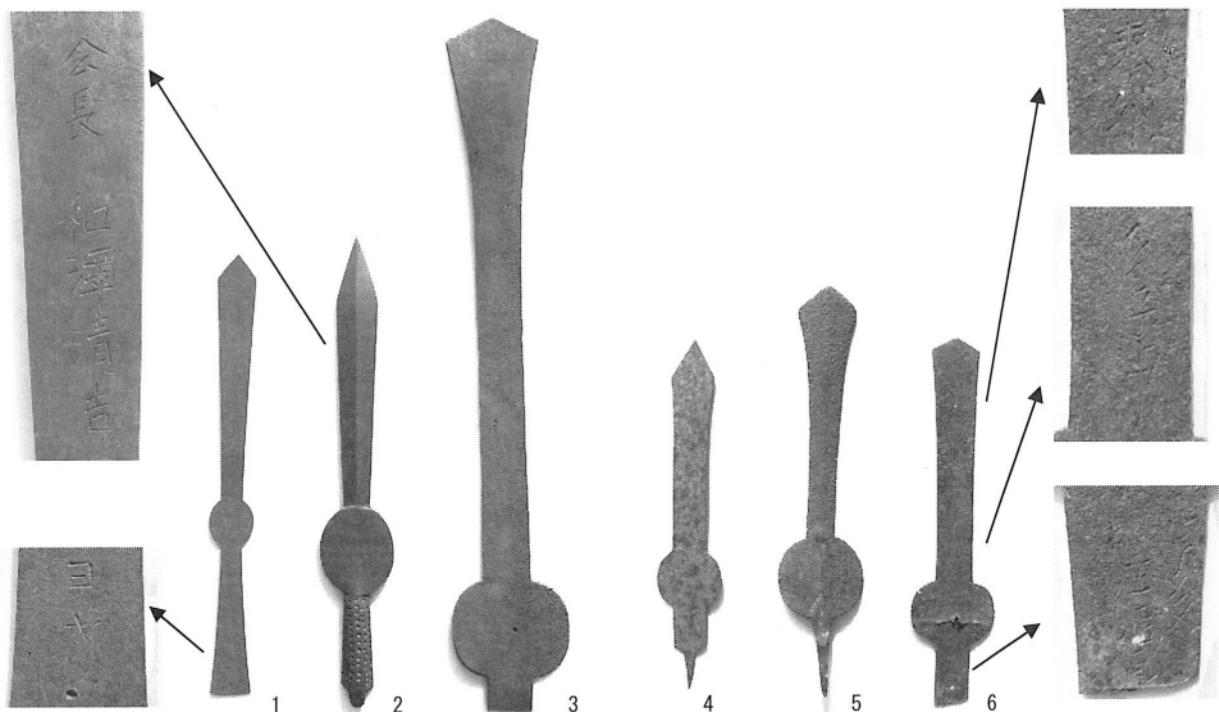


写真 薬師岳資料、旧長棟村弁天社資料

有峰村民による薬師岳信仰の様相の一端が、奉納された模造剣にあらわされているといえるだろう。なお、模造剣は地元で作られたものではなく、飛騨の野鍛冶に注文して打たせたとの話もあり、飛騨や信州など近隣山岳地の動向についても考慮しておく必要がある。

おわりに

大山地域では、ほかに牧野の東薬寺や個人所有の奉納模造剣の所在情報を得ていたが、実物を確認していないため、今回は触れられなかった。佐伯哲也氏が採集された薬師岳山頂資料も含めて、今後検討していきたい。また、旧長棟村弁天社資料を同型の奉納品として捉えたが、山岳信仰と神社奉納の在り方なども課題である。

引用・参考文献

- 加藤泰三 1956 『霧の山稜』 朋文堂 (1941 初版本の再版)
- 佐伯哲也 2005 「大日岳及び薬師岳で採集した遺物について」『大境』第 25 号 富山考古学会
- 佐伯哲也 2007 「山頂採取遺物から推定する山岳信仰一大日岳及び薬師岳の山頂採取遺物からー」『日本海文化研究所公開講座平成 18 年度記録集 山からみた日本海文化Ⅱ』 富山市日本海文化研究所
- 佐伯哲也 2010 「薬師岳山頂の信仰遺跡について」『大山の歴史と民俗』第 13 号 大山歴史民俗研究会
- 酒井重洋 2009 「芦嶋寺室堂遺跡」『第 22 回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の山岳信仰』 北陸中世考古学研究会
- 廣瀬 誠 1976 「薬師岳の信仰と有峰びと」『山岳宗教史研究叢書 10 白山・立山と北陸修験道』 名著出版
- 深田久弥 1964 「薬師岳」『日本百名山』 新潮社
- 前田英雄編 2009 『有峰の記憶』 桂書房
- 宮田進一 2009 「立山」『第 22 回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の山岳信仰』 北陸中世考古学研究会

研究余話IV 富山城下町戸田式部邸出土の擂鉢について

中 本 八 穂 (大沢野文化会館主査学芸員)

はじめに

2006年の富山城下町武家屋敷（旧・戸田式部邸）地内の発掘調査時、ゴミ穴から出土した越前焼擂鉢について古川知明氏は破損の状況や「占」の墨書、新品であることなどから「破損や廃棄時の破壊行為ではなく意図を持って行なわれた行為」=亀卜に通じる雑占の一例として報告された（古川2010）。

本稿はその擂鉢に対する具体的な破壊行為について民俗事例をもとに推察するものである。

1 出土した「擂鉢」について

出土した当該越前擂鉢は口径 35.4cm、高 15.5cm、底径 19.8cm で形状等、諸所の特徴から 1810 年～1840 年の製作年代が付与されている。古川氏の報告から擂鉢の情報を要約すると、

- ①底面の穿孔、口縁部に「占」の字が墨書されていた。
- ②越前焼で新品。当時の富山城下では越前の擂鉢はほとんど流通していない。
- ③底面に穿たれた孔は「鉢を裏返して伏せ」、「棒状の道具」で「底外面から斜めに突いて開けられたもの」。
- ④⑤の行為により「孔周辺のひび割れを招き、一瞬で器全体が割れた」、「これら一連の行為は、孔を開けるためではなく、器を割る目的で行なわれ」、破壊時には少なくとも破片は22片となつた。またそのうち約半数の10片は見つかっていない。

という 4 点となる。

①の口縁内面に口縁と水平に墨書された「占」の字については、占の字の「口」の部分の筆運び、すなわち「口」の字の 3 画目の横線を意識せず、2 画目の豎線を垂直に下げ、留めていることから墨書は何かの印や記号とも考えられるが、古川氏の言うように口縁に肘があたり「極めて書き難い」状況であるため最後の画を省略したとも考えられる。いずれにせよ「占」の墨書の意味するところは不明瞭であるが、「占」用の器物として別の擂鉢や日常容器とは区別していると考えるのが妥当であろう。

②擂鉢卸目の磨耗状態から新品である。「肥前（伊万里・唐津）と越中瀬戸が主体」の富山城下の流通状態にあって、越前擂鉢は出土割合からみてほとんど流通していない珍しい容器である。古川氏の言うように「特別な目的」を持って入手されていると考えられる。

③の行為によって形成された破片のうち発掘調査において検出されなかつた④の 10 点について概観すると、特徴的なのは 8 点までが口縁部であること。大きさについても残存部位に比べると小ぶりである。

2 「擂鉢」の意味するもの

鉢が日常調理用具としてのほか、他の重要な意味を内包していないか『日本国語大辞典』（小学館）を参照すると、「すりばち」の「すりばちを割る」項には「処女をうばう」とある。さらに「あらばち（新鉢）」にも「（未使用の鉢の意から）処女の性器。あなばち。」とあり、「あらばちを割る」には「処女を奪う。処女と枕を交わす。」と近世の用例が載る。同様に「すりばちを俯（うつぶけ）にする」項に「荒神のとがめをなだめるためにするまじない」とあるように、管見ながら鉢は女陰を意味するだけでなく、その「伏せる」、「被せる」使用方法には例えば出産時の胎盤処理容器としての胞衣壺、焙烙、特異な死因とされる死者の鍋被り葬の鍋、盆中の死者への鉢被り葬の鉢、『御伽草子』「鉢かづき」にみられる鉢等のように鉢=女陰の構図は生（性）と死をつなぐ神聖化された禁厭的要素が浮かび上がる。

ところで擂鉢と擂粉木は機能的に見るとそれぞれが独立して用を成すことは出来ない。しかしながら両者の機能を補完し統合することで食物を擂り潰すという行為が成立する。さらにその先述したと

おり鉢=女陰の連想と擂粉木を使用した摺りつぶす行為が性的連想を伴うことから、夫婦や和合の象徴記号と捉えられるようになったと考えられる。擂鉢と擂粉木の関係について江戸中期の俳人山崎北華は『風俗文選拾遺二』「摺鉢摺小木の辯」において「君臣父子夫婦兄弟朋友の上下和し睦じく、事調ひ用をなすも亦如斯。君父夫兄朋是を以て摺小木とす、臣子婦弟我れ是を以て摺鉢とす、摺鉢先づ物を受けて摺小木是に交り、其の間能く和し能く廻り、能くこねて其の用をなす。あゝ天地の心陰陽和合の道、摺鉢摺小木の間にも亦明らか也。是を不測の妙とやいはむ。」とその象徴性について述べている。

3 『東京人類學會報告「婚姻風俗集」』より

擂鉢を使用した民俗事例を調べるうちに興味深い報告を見つけた。

「○擂盆を割る（和田萬吉報）

近き頃まで美濃大垣邊にて婚姻ある家に於て其儀式の夜饗宴の央バに至れば媒酌人兼て用意したる擂盆を出し擂木を揮て之をたゝき割る例ありき尤も是は坐興の如きものにて多く中等以下の家まで行ふ夫れも十軒が十軒といふ譯には非ず然れども決志て一時の流行には之れ無く舊くより傳をりしを也といふ傭媒妁人は其場に當りて擂盆の美事に割ることを願ふ故ニ豫志めヒゞなど付け置くよし」

「○婚姻ノ席ニテ摺鉢ヲ破ル（坪井正五郎報）

小田原ノ士族間ニハ維新頃迄婚姻ノ席ニテ摺鉢ヲ破ル式アリシ由ハ曾テ大谷津直磨氏ヨリ聞キタル話ナルガ尚ホ福住正兄氏ヨリモ聞キタルヲ以テ左ニ記ス婚姻ノ席ニテ座定リイザ盃事ヲ爲サントスル時一方ヨリハ新婦ノ親戚一人上下ヲ着シ恭シク摺鉢ヲ携へ出デ一方ヨリハ新夫ノ親戚同ジク上下ヲ着シ摺子木ヲ持チ出デ來リ之ヲ以テ摺鉢ヲ打チ破リ其破片ノ散乱セシモノハ席ニ在ル人々紙ニ包ミテ持チ歸ルナリ」

和田の報告では「兼て用意したる擂盆」とあることから、日常使用の擂鉢を用いずに婚儀のために事前に擂鉢を入手していることがわかる。また「坐興の如きもの」で「美事に割ることを願ふ故ニ豫志めヒゞなど付け置く」とあり、卜占的な擂鉢の破壊行為がすでに形骸化したものとなっている。次の坪井の報告では擂鉢の破壊行為が「小田原の士族間」に維新頃まで行なわれたことを報じ、その儀式の主催者身分に言及している。和田報告の「中等以下の家まで行ふ」に対し、坪井報告は「士族間」と限定的であるが、和田報告から美濃地方においてはすでに「決志て一時の流行には之れ無く舊くより傳」えられた習俗として、武家の範疇を越えた「中等」階層にまでこの儀式が敷衍していたと考えられる。小田原の例ではさらに「上下ヲ着シ恭シク」新婦の親戚が「摺鉢ヲ携へ出デ」、新夫の親戚が「同ジク上下ヲ着シ」「摺鉢ヲ打チ破」るとあり、儀式における主体者の役割分担が明確である。前記北華の『風俗文選拾遺』では擂粉木を上位者（夫）、擂鉢を下位者（婦）に見立てており、この役割分担と相關すると考えられる。

武家においては、婚姻は両家の安寧、家名存続のため子孫繁栄をもたらす重要な儀式である。子宝に恵まればともかく、当主に跡継ぎが無ければ親戚のうちから妥当なものを養子として迎えことで、家名存続の可能性は高くなる。家名存続の実利的な面のみならず、道義的な面も武家にとっては重要である。換言すれば、結婚は第一義に主家への「忠」と先祖に対する「孝」の道義面の永続性を対外的に強調する材料ともなるのである。坪井報告のとおり両家の親戚が「破片ノ散乱セシモノハ席ニ在ル人々紙ニ包ミテ持チ歸ル」ことからも擂鉢破片が婚姻という両家の婚姻契約の証として必要かつ重要であったのだ。

4 まとめ

古川氏は擂鉢の破壊行為を総合して「富山城下町に存在した陰陽師や修験者が、何らかの吉凶占いあるいは呪詛を富山藩重臣戸田家の屋敷において行ったものと推定」されている。確かに富山城下における修験者や陰陽師など民間宗教者が多数存在し、その医療活動が藩の重要産業でもあった富山壳薬普及の根源であった（根井 1980）ことは首肯することができる。しかし、民間宗教者である修験者、陰陽師が関与する「何らかの吉凶占いあるいは呪詛」というよりも婚儀の宴席上で親類縁者が夫婦和

合と子孫繁栄を願う習俗、すなわち一種形式的な座興禁厭—現代のケーキカットのような—として行なわれたと推察したほうが前記擂鉢の性格と「東京人類學會報告」の雰囲気を伝えている。

出土した擂鉢をこれらの事例に照らし合わせると、当該擂鉢は戸田家における婚礼という「ハレ」の場で使用する=割られるためのものであったと推定できる。富山城下での流通量の多い肥前や越中瀬戸を用いなかつた理由としては、非日常の「ハレ」を演出する小道具として他の擂鉢と明確に区別して使用したためと考えられよう。なお『風俗文選拾遺』では「摺鉢は備前の土を最上とす」、『和漢三才図会』では、「擂盆出於備前者良、其他者土柔而筋理易潰也」とあり、擂鉢の上品は備前焼であるとされている。富山藩の上級武士でもある戸田家の婚儀においては備前擂鉢の購入も可能であったと考えられるが、備前擂鉢が最上と喧伝されたのは擂鉢というモノ自体の硬く卸目が潰れないという調理器具としての有用性の点であり、擂鉢の夫婦和合という象徴性や記号的な面ではない。備前ではなくとも流通状態の多寡から肥前や越中瀬戸であっても充分に非日常性を演出でき得るのである。

宴席上における擂鉢破壊の役割分担どおり新婦側の持参品であるとすれば、当然戸田家が購入したものでは無く、新婦の実家と越前陶流通ルートの間に特段の関係があれば別だが、新婦側の実家が入手したものとなる。古川氏の言うように越前陶自体は「通常の生活容器流通購買ルートで購入」することが可能であった。その中にあって当該擂鉢は（備前ブランドとしてではなく）「ハレ」の日の道具としてボーデリヤールの言うように「差異化」、「記号化」され「通常の生活容器流通購買ルート」という無意識的に規定される社会的な「コード」の中で購入消費されたと考えられる。

具体的には新品の擂鉢に「占」字の墨書きを加えることで「占」有し、他の調理器具とは厳密に、「占」い用として区分し、婚儀の宴席上これを伏せ破壊したもの、さらに穿って言えば、未検出の擂鉢口縁部破片群は、その形状から擂鉢を常に想起できる記念品として婚儀に出席した親類縁者が持ち帰った結果によるものであると理解したい。

引用・参考文献

- ジャン・ボードリヤール 1995 『消費社会の神話と構造』 紀伊国屋書店
神宮司庁 1914 『古事類苑』
根井 浄 1980 「富山壳薬と修驗者について」『印度學佛教學研究』第28卷2号 日本印度学仏
教学会
古川知明 2010 「富山城下町における江戸期ト占の一例-越前焼擂鉢の使用例から-」『富山市の遺
跡物語』第11号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
山崎北華 1914 「風俗文選拾遺」佐々醒雪・巖谷小波校訂『名家俳文集』 博文館
和田萬吉・坪井正五郎 1887 「婚姻風俗集」『東京人類學會報告』第2卷11号 東京人類學會

図書販売のお知らせ

図書購入希望の方は、タイトルと冊数を明記し、書籍代金（現金書留あるいは定額小為替）と
送料（切手）を同封のうえ、当センターまでご送付ください。

①「越中と美濃を結ぶ考古展 交流のはじまり 旧石器時代～古代」展示図録(A4, 63頁)

価格：1冊 800円 送料：1冊 290円

②「越中と美濃を結ぶ考古展Ⅱ 城と都市—遺 跡から見る戦国と江戸—」展示図録(A4, 87頁)

価格：1冊 1,500円 送料：1冊 290円

いずれも残部僅少ですので、ご注文の際は在庫を
ご確認ください。



研究余話V 医王山東薬寺蔵柱材の調査

古川知明（埋蔵文化財センター所長）
（株）パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ⁽¹⁾

1 東薬寺史と出土地の概要

富山市牧野に所在する医王山東薬寺（人見照直住職）は、真言宗の古刹である（第1図）。本寺は、大宝元（701）年行基創建と伝承しており、「貞享二年寺社由緒書上」には、空栄が慶長元（1595）年開山したとある⁽²⁾。本尊の木造不動明王坐像（県指定）は、これまで平安時代末の作風を残した鎌倉初期の作とされてきたが⁽³⁾、放射性炭素年代測定の結果、11世紀前半にさかのぼることが明らかになった⁽⁴⁾。

東薬寺の前身は、桃井播磨守の菩提寺「牧野寺」と伝えられ、能登の斯波義将が津毛城攻撃の際この寺を焼討したという。廃絶した牧野寺所有品のすべてを東薬寺に譲ったものと推定されている⁽⁵⁾。

東薬寺薬師堂は、山腹の現本堂の北側に残る旧本堂前にあり、旧参道を登りきったところに位置する。この薬師堂の中に、乾燥した柱材3点、中世一石五輪塔1基が収められていた。柱材は、昭和47年春の圃場整備工事の際出土したもので、通称カネツキダ周辺から発見されたものを、牧野集落住民が薬師堂に納めたものという。柱材は数多く出土したが、この3本のみ現存する。堂内には、同時に出土したとされる角閃石安山岩製一石五輪塔（長さ27.6cm）1基が入っていた。また、山麓の旧参道に面する寺口氏宅には、室町時代（1380—1440年頃）の珠洲大甕⁽⁶⁾が遺存しており（第2図）、これらも柱材と一緒に出土したものと伝える。

カネツキダの範囲は、山麓の参道入口付近から東に広がる水田付近と推定され、明治以前の東薬寺本堂は、この南側に存在したと伝える（第3図）。

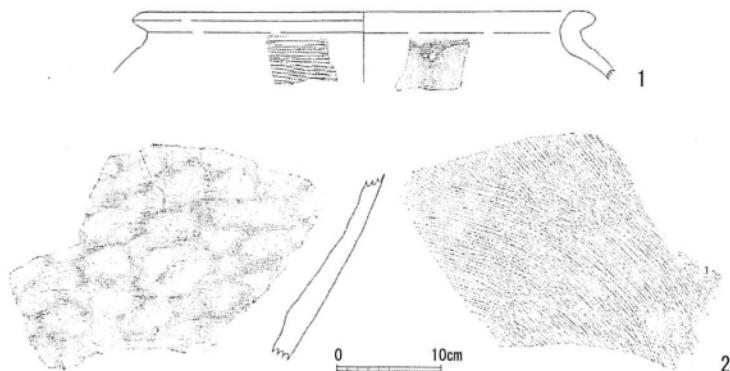
カネツキダを含む埋蔵文化財包蔵地「牧野遺跡」からは、富山市教育委員会埋蔵文化財センターが行った分布調査により、平安時代から近世にわたる陶磁器類が表面採集されている⁽⁶⁾。

2 柱材の概要（第4・5図）

断面が八角形状の柱材が3本ある。いずれも柱底が存在しており、柱底から20~40cmまでは良好に遺存する。それより上部は腐食してい



第1図 東薬寺の位置と柱材出土推定地（○印）



第2図 伝カネツキダ出土珠洲



第3図 カネツキダと周辺の地割（明治時代）

る。この柱材は、四角柱の隅角を 45 度方向に削った切面が行われた、いわゆる大面取柱である。いずれも辺材で心去材である。材質はスギまたはヒノキ材とみられる。以下その概要を記す。

柱材(1) 現存長 55.8cm、柱幅 21.1cm × 19.8cm の柱材である（写真 4）。遺存状況から復元すると、柱幅は 7 寸（21.2cm）× 6.5 寸（19.7cm）となる。7 寸幅面は、面内 4 寸を残し見付 1.5 寸を削落とし面取りする。6.5 寸面は、面内 3 寸（10cm）を残し見付 1.75 寸を削落とし面取りする。面幅は前者 2.1 寸、後者は 2.5 寸である。

各面内および面取部分は、手斧等で粗く仕上げられている。うち 1 面は柱底から 1~3 寸の範囲に楕円形のハツリ面があり、刃先の欠損痕跡が各面にすべて見えている（写真 6）。

柱底面は、側面側から削って平坦に整形している（写真 5）。

柱底部から上 4cm のところに、全面にわたり紐状の圧痕が巡る。圧痕の断面は半円形で、幅は約 2mm である。2~3 本が平行して巡っており、その幅は 6mm 程度である（写真 8）。この圧痕がいつの段階に、どういう理由で付いたかは不明である。

柱材(2) 現存長 52cm、幅 20.8cm × 20.0cm の柱材である（写真 9）。遺存状況から復元すると、柱幅は 7 寸 × 7 寸となり、柱材(1)より柱幅が広い。面内は 10.6~14.4cm で、面幅は 3~4.8cm である。

各面内および面取部分は、柱底方向に手斧等で仕上げられている。柱材(1)より丁寧な整形である。柱面内に食い込んだ加工刃先跡からみて、幅約 4cm の刃先の水平なノミ状工具と、幅約 9.6cm の刃先の水平な鉈状工具が復元される（写真 11）。

底面はほぼ平らであるが、柱主軸に対して垂直ではなく、やや斜めに整形されており、底面を水平に据えると、柱は斜めに立つことにある（写真 10）。

柱材(3) 現存長 35.8cm、幅 14.7cm × 13.5cm で、3 本中最も小形の柱である（写真 12）。遺存状況から復元すれば、幅は 5 寸（15.2cm）× 5 寸となる。面内 3 寸を残し見付 1 寸を削落とし面取りするもの 1 面と、面内 2.5 寸を残し見付 1.25 寸を面取りするもの 3 面がある。面幅は、前者が 1.4 寸、後者は 1.8 寸である。各面内および面取部分は、手斧等で粗く仕上げられている。底面は側面側から削って平坦に整形している（写真 13）。

これらの柱は、7 寸角と 5 寸角との 2 種の大面取柱に分けられ、前者が主柱クラス、後者が脇柱クラスの規格とみられる。柱基部の良好な遺存状況等から判断すると、これらの柱は柱穴に埋めた掘立柱ではなく、礎石に乗せた柱とみられる。

（古川）

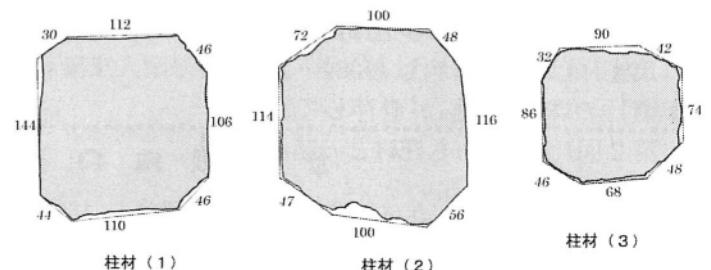
3 放射性炭素年代測定結果

牧野遺跡出土と推定される古建築材について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

(1) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 1 表のとおりである。

牧野遺跡出土の断面八角形柱は、柱材の型式から古代末から中世前期とされる古建築材である。木材の樹種はス



第 4 図 柱断面形・規格（数字は mm）

第 1 表 柱材属性表

区分	面内 (mm)					面幅 (mm)					面内平均 : 面幅平均
	1	2	3	4	平均	1	2	3	4	平均	
柱材(1)	110	112	144	106	118	48	30	44	46	42	2.8 : 1
柱材(2)	100	100	116	114	108	48	56	72	62	59.5	1.8 : 1
柱材(3)	68	86	90	74	79.5	46	48	42	32	42	1.9 : 1

第2表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-12846	試料No. : 2 採取地：推定牧野遺跡 種類：断面八角形柱 木取：芯去材	試料の種類：生材(スギ/ヒノキ) 試料の性状：心材 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス

ギあるいはヒノキとされ、心材が用いられている。木取は芯去材である。

試料は調製後、加速器質量分析計(㈱パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)で測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

(2) 測定結果

第2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

¹⁴C年代の暦年較正には0xCal14.0(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、第3表中に下線で示した。

第3表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-12846 試料No. : 2	-24.54 \pm 0.12	1105 \pm 22	1105 \pm 20	898AD (28.3%) 922AD 943AD (39.9%) 977AD	<u>891AD (95.4%) 988AD</u>

(3) 小結

牧野遺跡出土の断面八角形柱(PLD-12846) 2σ 暦年代範囲は、891–988calAD(95.4%)で、9世紀末～10世紀後半にあたる。断面八角形柱も心材が用いられており、古木効果の影響を考える必要がある。従って、断面八角形柱の木材が伐採されたのは9世紀末以降と言える。(㈱パレオ・ラボ)

4 考察

カネツキダ周辺の牧野遺跡から出土した角柱は、9世紀末以降に伐採された木材による建物柱材であることが判明した。正八角断面ではなく、大面取を行う角柱として認識される。

まず大面取の角柱の性格を検討する。このような大面取柱についての概要是、青木義脩氏により、次のように概括されている⁽⁷⁾。大面取柱は、平安時代後期に始まり、この時期が最も顕著である。寺社建築では円柱が主流で、角柱は裳階・庇・向拝等に用いられ、格が低い。大面取柱は桃山期まで存在し、その時期には柱幅と面幅の比は10:1程度になる、といった特徴である。このような建物には、寺社・官衙施設などが想定されている。

本例においては、柱幅と面幅の比は平均値で1.8～2.8であり、これは面取部分が大きいことを示し、桃山期以前の古相と考えることができる。

頭書に紹介した、東葉寺の前身とみられる牧野寺の伝承は、桃井直常との関連で語られており、14世紀後半代との親縁性が高い。共伴した可能性の高い遺物は、先に紹介した一石五輪塔・珠洲陶

であり、およそ15世紀第2四半世紀以降における密教系宗教遺構の存在と、墓地あるいは集落の形成を示唆する。

牧野遺跡の内容はこれらより古く、9世紀以降継続して人々の生活の痕跡があつたことを示している。

以上の結果を総合的に評価すると、この大面取角柱の年代は、¹⁴C年代及び大面取角柱出現年代からみて、平安後期11世紀頃を上限とする年代を考えることができよう。この年代は、先に述べた本尊不動明王坐像の年代（11世紀前半）と符号する。石原与作氏は、この不動明王坐像は牧野寺の所蔵品であったと推定しており⁽¹⁾、牧野寺の用材としてこの大面取角柱が使用された可能性が浮上する。したがって、この大面取角柱が出土した位置に牧野寺が存在した可能性がある。しかしながら、この木柱が出土した当時のことを知る方々は既に他界されており、その正確な位置は不明となってしまった。

ただし、出土した生活遺物からみると、15世紀頃の室町後期が主体である。これは伝承の桃井直常の年代ともずれていることになる。このような相違は、今後の発掘調査等の成果によって再度解明を試みなければならない。ここでは、平安後期牧野寺の建築材の可能性を提示しておきたい。

5 おわりに

本稿の作成にあたり、木柱の図化は小林高太氏の協力を得た。また、東薬寺ご住職、寺口重彦氏、松浦正昭氏（富山大学）の各位には多大なご協力を得た。記してお礼申し上げる。（古川）

注

- (1) 伊藤茂・丹生越子・尾崎大真・廣田正史・瀬谷薰・小林紘一・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎
- (2) 古川知明・伊集守道 2008 「医王山東薬寺の文化四年銘宝篋印塔下の埋納礫石経の調査」『富山市考古資料館紀要』第28号 富山市考古資料館
- (3) 松浦正昭・古川知明・㈱吉田生物研究所・㈱パレオ・ラボ 2010 「医王山東薬寺蔵木造不動明王坐像の年代測定分析について」『富山市考古資料館報』No.47 富山市考古資料館
- (4) 石原与作 1963 『大山史話』 大山町
- (5) 吉岡康暢氏による珠洲陶編年の第V期（西暦1380年から1440年代）に比定される。
吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- (6) 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2008 「6 遺跡地図管理」『富山市の遺跡物語』第9号
- (7) 青木義脩 2000 『文化財探訪クラブ③ 寺社建築』 山川出版社



写真1 東薬寺と柱材出土地付近（東から）



写真2 柱材が保管されていた東薬寺薬師堂



写真3 米軍撮影空中写真（1947年）



写真4 柱材1



写真6 柱材1のハツリ



写真5 柱材1底面



写真11 柱材2加工



写真12 柱材1底面



写真7 柱材1加工



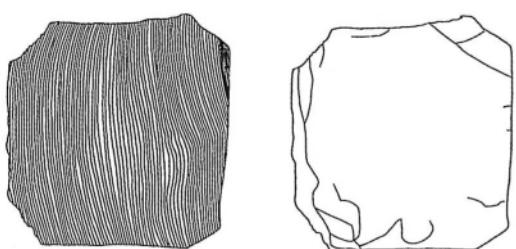
写真10 柱材2底面



写真8 柱材1の圧痕



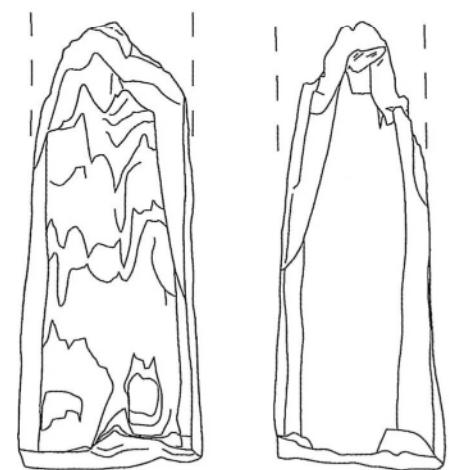
写真13 柱材1底面



1

2

0 20cm



3

第5図 木柱実測図

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第12号

平成23(2011)年3月30日

編集・発行

富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1-2-24

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

URL:<http://homepage2.nifty.com/kitadai/>

(北代縄文広場と兼用)

E-mail:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 株式会社カラファクトリー